

基本計画書

基本計画										
事項	記入欄								備考	
計画の区分	学部の設置									
フリガナ設置者	ガッコウオタニ シンジュウオカクケン 学校法人 真宗大谷学園									
フリガナ大学の名称	オタニ大学 大谷大学 (Otani University)									
大学本部の位置	京都府京都市北区小山上総町20番地									
大学の目的	本学は学校基本法及び学校教育法の定めるところに従い、仏教の精神に則り、人格を育成するとともに、仏教並びに人文に関する学術を教授研究し、広く世界文化に貢献することを目的とする。									
新設学部等の目的	純真な人格形成を目指す高い教職意識と責任感を持ち、社会的常識や対人関係能力を備えて子どもたちの声に耳を傾けることのできる、慈育の精神に富んだ専門職業人の育成をめざす。									
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地		
	教育学部 [Faculty of Education] 教育学科 [Department of Education] 計	年	人	年次人	人	学士 (教育学)	平成30年4月 第1年次	京都府京都市北区 小山上総町20番地		
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	文学部 社会学科(廃止) (△120) 人文情報学科(廃止) (△100) 教育・心理学科(廃止) (△100) ※平成30年4月学生募集停止 文学部 真宗学科〔定員減〕 (△10) (平成30年4月) 哲学科〔定員減〕 (△10) (平成30年4月) 国際文化学科〔定員減〕 (△10) (平成30年4月) 社会学部 現代社会学科 (120) (平成29年4月届出予定) コミュニティデザイン学科 (100) (平成29年4月届出予定) 短期大学部 仏教科(廃止) (△20) ※平成30年4月学生募集停止									
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数				
		講義	演習	実験・実習	計					
	教育学科	120 科目	107 科目	14 科目	241 科目	124 単位				
教員組の概要	学部等の名称		専任教員等						兼任教員等	
			教授	准教授	講師	助教	計	助手		
	新設	教育学部 教育学科	10 (10)	7 (7)	2 (2)	0 (0)	19 (19)	0 (0)	27 (27)	平成29年4月 届出予定 平成29年4月 届出予定
		社会学部 現代社会学科	6 (6)	3 (3)	2 (2)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	27 (27)	
		社会学部 コミュニティデザイン学科	5 (5)	3 (3)	3 (3)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	12 (12)	
		計	21 (21)	13 (13)	7 (7)	0 (0)	41 (41)	0 (0)	- (-)	
	既設	文学部 真宗学科	3 (3)	2 (3)	3 (2)	2 (2)	10 (10)	0 (0)	6 (6)	
		仏教学科	3 (5)	3 (3)	2 (1)	2 (2)	10 (11)	0 (0)	13 (13)	
		哲学科	3 (5)	4 (2)	0 (0)	1 (1)	8 (8)	0 (0)	17 (17)	
		歴史学科	6 (6)	4 (3)	2 (2)	2 (2)	14 (13)	0 (0)	33 (33)	
		文学科	6 (6)	5 (4)	2 (2)	2 (2)	15 (14)	0 (0)	27 (27)	
		国際文化学科	3 (4)	4 (5)	1 (1)	2 (2)	10 (12)	0 (0)	22 (22)	
	計	24 (29)	22 (20)	10 (8)	11 (11)	67 (68)	0 (0)	94 (94)		
合計	45 (50)	35 (33)	17 (15)	11 (11)	108 (109)	0 (0)	- (-)			

教員以外の職員の概要	職 種		専 任	兼 任	計				
	事 務 職 員		68 人 ( 68 )	33 人 ( 33 )	101 人 ( 101 )				
	技 術 職 員		0 ( 0 )	0 ( 0 )	0 ( 0 )				
	図 書 館 専 門 職 員		7 ( 7 )	15 ( 15 )	22 ( 22 )				
	そ の 他 の 職 員		0 ( 0 )	0 ( 0 )	0 ( 0 )				
	計		75 ( 75 )	48 ( 48 )	123 ( 123 )				
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
	校 舎 敷 地	0.00 m <sup>2</sup>	44,452.60 m <sup>2</sup>	0.00 m <sup>2</sup>	44,452.60 m <sup>2</sup>		大谷大学短期大学部 と共用		
	運 動 場 用 地	0.00 m <sup>2</sup>	29,680.12 m <sup>2</sup>	0.00 m <sup>2</sup>	29,680.12 m <sup>2</sup>				
	小 計	0.00 m <sup>2</sup>	74,132.72 m <sup>2</sup>	0.00 m <sup>2</sup>	74,132.72 m <sup>2</sup>				
	そ の 他	0.00 m <sup>2</sup>	11,464.30 m <sup>2</sup>	0.00 m <sup>2</sup>	11,464.30 m <sup>2</sup>				
	合 計	0.00 m <sup>2</sup>	85,597.02 m <sup>2</sup>	0.00 m <sup>2</sup>	85,597.02 m <sup>2</sup>				
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
		6,236.11 m <sup>2</sup> (6,236.11 m <sup>2</sup> )	47,260.21 m <sup>2</sup> (47,260.21 m <sup>2</sup> )	450.46 m <sup>2</sup> (450.46 m <sup>2</sup> )	53,946.78 m <sup>2</sup> (53,946.78 m <sup>2</sup> )		大谷大学短期大学部 と共用		
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設				
	66 室	49 室	40 室	8 室 (補助職員 0人)	1 室 (補助職員 1人)		大学全体		
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数					
		教育学科		19 室					
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点		
	教育学科	882,796 [181,621] (846,796 [175,621])	6,561 [667] (6,481 [647])	589 [530] (589 [530])	2,100 (2,080)	30 (30)	0 (0)	大学全体、大谷 大学短期大学部 との共用	
	計	882,796 [181,621] (846,796 [175,621])	6,561 [667] (6,481 [647])	589 [530] (589 [530])	2,100 (2,080)	30 (30)	0 (0)		
図書館	面積		閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数				
		7604.82 m <sup>2</sup>		588		1,115,833		大学全体	
体育館	面積		体育館以外のスポーツ施設の概要						
		4,857.06 m <sup>2</sup>		柔 道 場 弓 道 場					
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	共同研究費等は大学全 体。図書購入費、設備購入費 は、大谷大学短期大学部 との共用図書および設備 として購入。 図書費には、電子ジャー ナル・データベースの整 備費を含む。
		教員1人当り研究費等	350千円	350千円	350千円	350千円	— 千円	— 千円	
	共同研究費等	80,000千円	80,000千円	80,000千円	80,000千円	— 千円	— 千円		
	図書購入費	55,970千円	65,000千円	65,000千円	65,000千円	— 千円	— 千円		
	設備購入費	38,300千円	8,000千円	8,000千円	8,000千円	— 千円	— 千円		
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
	1,290千円	1,280千円	1,280千円	1,280千円	— 千円	— 千円	※学生納付金 は、教育学部教 育学科		
学生納付金以外の維持方法の概要			手数料、寄付金、補助金、受取利息・配当金収入等						
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 の 名 称	大谷大学							
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設 年度	所 在 地
		年	人	年次 人	人		倍		
	文学部	—	745	—	2,995	—	1.05	—	京都府京都市北区
	真宗学科	4	70	—	280	学士 (文学)	0.86	昭和40年度	小山上総町20番地
	仏教学科	4	25	—	135	学士 (文学)	0.96	昭和24年度	平成27年度入学定員減 (△35人)
	哲学科	4	60	—	240	学士 (文学)	0.72	昭和24年度	
	社会学科	4	120	—	460	学士 (社会学)	1.21	昭和40年度	平成27年度入学定員増 (20人)
	歴史学科	4	100	—	400	学士 (文学)	1.25	昭和40年度	
	文学科	4	70	—	280	学士 (文学)	1.33	昭和40年度	
国際文化学科	4	100	—	400	学士 (文学)	0.96	平成5年度		
人文情報学科	4	100	—	400	学士 (文学)	0.88	平成12年度		
教育・心理学科	4	100	—	400	学士 (教育学)	1.16	平成21年度		

大学の名称		大谷大学大学院						
学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
	年	人	年次人	人		倍		
文学研究科 (修士課程)	—	79	—	158	—	0.40	—	京都府京都市北区 小山上総町20番地
(博士後期課程)	—	18	—	54	—	0.33	—	
真宗学専攻 (修士課程)	2	20	—	40	修士(文学)	0.70	昭和28年度	
(博士後期課程)	3	3	—	9	博士(文学)	0.99	昭和30年度	
仏教学専攻 (修士課程)	2	15	—	30	修士(文学)	0.53	昭和28年度	
(博士後期課程)	3	3	—	9	博士(文学)	0.44	昭和30年度	
哲学専攻 (修士課程)	2	10	—	20	修士(文学)	0.15	昭和29年度	
(博士後期課程)	3	3	—	9	博士(文学)	0.11	昭和31年度	
社会学専攻 (修士課程)	2	6	—	12	修士(文学)	0.08	平成11年度	
(博士後期課程)	3	3	—	9	博士(文学)	0.00	平成13年度	
仏教文化専攻 (修士課程)	2	10	—	20	修士(文学)	0.75	昭和29年度	
(博士後期課程)	3	3	—	9	博士(文学)	0.22	昭和31年度	
国際文化専攻 (修士課程)	2	10	—	20	修士(文学)	0.00	平成11年度	
(博士後期課程)	3	3	—	9	博士(文学)	0.22	平成13年度	
教育・心理学専攻 (修士課程)	2	8	—	16	修士(教育学)	0.06	平成25年度	
大学の名称		大谷大学短期大学部						
学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
	年	人	年次人	人		倍		
仏教科	2	20	—	40	短期大学士(仏教)	0.40	昭和25年度	京都府京都市北区 小山上総町20番地
幼児教育保育科	2	80	—	160	短期大学士(幼児教育保育学)	0.90	昭和41年度	
大学の名称		九州大谷短期大学						
学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
	年	人	年次人	人		倍		
仏教学科	2	10	—	20	短期大学士(仏教学)	0.85	昭和45年度	福岡県筑後市 蔵敷495-1
表現学科	2	50	—	100	短期大学士(表現学)	1.19	昭和45年度	
幼児教育学科	2	100	—	200	短期大学士(幼児教育学)	0.87	昭和45年度	
福祉学科	2	35	—	70	短期大学士(介護福祉学)	0.46	平成11年度	
専攻科 福祉専攻	1	30	—	30		0.06	平成7年度	
附属施設の概要	〔名称〕 真宗総合研究所							
	〔目的〕 真宗あるいは仏教の立場から諸学問を総合すること、並びに仏教を通じた国際的な学術交流を推進すること							
	〔所在地〕 京都府京都市北区小山上総町 大谷大学真宗総合学術センター内							
	〔設置年月〕 昭和56年							
	〔規模等〕 専有面積 1,124.00 m <sup>2</sup>							
	〔名称〕 大谷大学博物館							
〔目的〕 建学の精神に則り真宗・仏教文化財を中心に、考古学、歴史学、民俗学等に関する博物館資料の収集、保管、展示及び調査研究を行い、本学における教育及び研究の発展に資するとともに、一般社会に公開すること								
〔所在地〕 京都府京都市北区小山上総町 大谷大学真宗総合学術センター内								
〔設置年月〕 平成15年								
〔規模等〕 専有面積 1,069.48 m <sup>2</sup>								

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学又は高等専門学校の場合、収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「—」又は「該当なし」と記入すること。

教育課程等の概要																
(教育学部 教育学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
共通基礎科目	総合科目	人間学Ⅰ	1前・後	4			○			1					兼3	
		人間学Ⅱ	2・3・4前・後	4			○								兼13	
	大学導入	学びの発見	1前	2				○		1						
	必修	英語Ⅰ	1前・後	4				○							兼6	
	外国語	英語Ⅱ	2前・後	4				○							兼8	
	小計(5科目)		—	18	0	0	—	—	2	0	0	0	0	0	兼26	
学科専門科目	演習	小学校教育学演習Ⅰ	1前・後	4				○		1	1				兼1	
		小学校教育学演習Ⅱ	2前・後	4				○		3						
		小学校教育学演習Ⅲ	3前・後	4				○		6	3	1				
		小学校教育学演習Ⅳ	4前・後	4				○		6	3	1				
		小計(4科目)			16	0	0	—	—	6	3	1	0	0	0	兼1
	概論	教育原論(小)	1後	2				○		1						
		仏教と教育(初等)	2後	2				○		1						
	小計(2科目)			4	0	0	—	—	2	0	0	0	0	0	0	
	講義	A	教育学概論Ⅰ	3前		2			○		1					
			教育学概論Ⅱ	3後		2			○		1					
			特別支援教育概論(初等)	2前		2			○							兼1
			教育人間学Ⅰ	3前		2			○							兼1
			教育人間学Ⅱ	3後		2			○							兼1
		B	教職入門(小)	1前		2			○		1					
			教育心理学(小)	1後		2			○		1		1			
			発達心理学(小)	1後		2			○							
			教育社会学(小)	2前		2			○							兼1
			教育行財政学(小)	2後		2			○							兼1
			教育課程論(小)	3後		2			○			1				
			特別活動論(小)	3前		2			○							兼1
			教育方法論(小)	2前		2			○							兼1
			生徒・進路指導論(小)	2前		2			○							兼1
			教育相談(小)	4後		2			○							兼1
			こども教育史Ⅰ	1前		2			○		1					
			こども教育史Ⅱ	1後		2			○		1					
			探求ゼミ(算数)Ⅰ	3前		2			○		1					
			探求ゼミ(算数)Ⅱ	3後		2			○		1					
			探求ゼミ(算数)Ⅲ	4前		2			○		1					
			探求ゼミ(理科)Ⅰ	3前		2			○				1			
			探求ゼミ(理科)Ⅱ	3後		2			○				1			
探求ゼミ(理科)Ⅲ			4前		2			○				1				
授業心理学			1前		2			○								兼1
こどもの描画分析			1前		2			○								兼1
教室の心理学			1前		2			○								兼1
障害のある子どもたち(初等)			1後		2			○								兼1
障害児の教育(初等)			3前		2			○								兼1
特別支援教育実践論(初等)		4後		2			○								兼1	
防災・安全教育(初等)		4後		2			○								兼1	
ICT教育		2後		2			○								兼1	
生涯学習概論		4前		2			○								兼1	
小計(32科目)			0	64	0	—	—	—	4	1	1	0	0	兼12		
実践研究	A	実践体験活動演習(小)Ⅰ	1前		2			○		1					兼1	
		実践体験活動演習(小)Ⅱ	1後		2			○		1					兼1	
	B	初等科教育法(国語)	3後		2				○		1					
		初等科教育法(社会)	3後		2				○						兼1	
		初等科教育法(算数)	2前		2				○		1					
		初等科教育法(理科)	2前		2				○			1				
		初等科教育法(生活)	3前		2				○						兼1	
		初等科教育法(音楽)	2後		2				○		1					
		初等科教育法(図画工作)	2前		2				○			1				
		初等科教育法(家庭)	3前		2				○						兼1	
		初等科教育法(体育)	2後		2				○			1				
		初等科教育法(外国語活動)	3後		2				○						兼1	
		道徳教育の理論と方法(小)	2前		2				○		1					





教育課程等の概要														
(教育学部 教育学科)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
キャリア形成系科目	PCミュージック応用	1・2・3・4後		2				○						兼1
	Webサイト構築入門	1・2・3・4前		2				○						兼1
	Webサイト構築応用	1・2・3・4後		2				○						兼1
	小計(26科目)	—	0	52	0	—	—	—	0	0	0	0	0	兼14
自然生命系科目	生命のしくみと多様性	1・2・3・4前		2				○						兼1
	自然と生物の科学	1・2・3・4後		2				○						兼1
	地震と火山1	1・2・3・4前		2				○						兼1
	地震と火山2	1・2・3・4後		2				○						兼1
	地球科学1	1・2・3・4前		2				○						兼1
	地球科学2	1・2・3・4後		2				○						兼1
	地球環境と生命の共進化	1・2・3・4後		2				○						兼1
	こころの科学	1・2前		2				○						兼1
	人間理解の心理学	1・2後		2				○						兼1
	スポーツと健康の科学1	1・2・3・4前		2				○						兼1
	スポーツと健康の科学2	1・2・3・4後		2				○						兼1
	脳とこころ	1・2・3・4前		2				○						兼1
	障害者スポーツ論	1・2・3・4後		2				○						兼1
	生涯スポーツ・レクリエーション活動	1・2・3・4後		2				○		1				兼1
	スポーツ研究演習Ⅰ	2・3・4前		2					○					兼1
	障害者スポーツ研究演習Ⅰ	2・3・4前		2					○					兼1
	スポーツ研究演習Ⅱ	2・3・4後		2					○					兼1
	障害者スポーツ研究演習Ⅱ	2・3・4後		2					○					兼1
	カウンセリング	1・2・3・4前		2				○						兼1
	身体活動Ⅰ	1・2・3・4前		1									○	兼2
	身体活動Ⅰ(障害者スポーツ)	1・2・3・4前		1									○	兼1
	身体活動Ⅱ	1・2・3・4後		1									○	兼2
	身体活動Ⅱ(障害者スポーツ)	1・2・3・4後		1									○	兼1
人間関係と身体表現	1・2・3・4前		2				○		1					
障害者・病者と共に生きる	1・2・3・4前		2				○							兼1
	小計(25科目)	—	0	46	0	—	—	—	0	2	0	0	0	兼11
現代総合科目	ヨーロッパの宗教と文化(ドイツ)	1・2・3・4後		2				○						兼1
	ヨーロッパの宗教と文化(フランス)	1・2・3・4後		2				○						兼1
	現代朝鮮半島事情	1・2・3・4後		2				○						兼1
	現代東南アジア事情	1・2・3・4後		2				○						兼1
	東南アジアの宗教文化	1・2・3・4前		2				○						兼1
	近代日本とアジア	1・2・3・4後		2				○						兼1
	東アジアの宗教文化	1・2・3・4前		2				○						兼1
	古都の歴史と文化	1・2・3・4前		2				○						兼1
	仏教と美術	1・2・3・4後		2				○						兼1
	インドの宗教と文化	1・2・3・4後		2				○						兼1
	中国の宗教と文化	1・2・3・4後		2				○						兼1
	人と文化	2・3・4後		2				○						兼1
	教育学1	1・2・3・4前		2				○						兼1
	教育学2	1・2・3・4後		2				○						兼1
	ブッダに学ぶ	1・2・3・4前		2				○						兼1
	親鸞に学ぶ	1・2・3・4後		2				○						兼1
	部落差別と大谷派教団1	1・2・3・4前		2				○						兼1
	部落差別と大谷派教団2	1・2・3・4後		2				○						兼1
	部落差別と浄土真宗1	1・2・3・4前		2				○						兼1
	部落差別と浄土真宗2	1・2・3・4後		2				○						兼1
	部落史論1	1・2・3・4前		2				○						兼1
	部落史論2	1・2・3・4後		2				○						兼1
	反カースト運動論	1・2・3・4後		2				○						兼1
	アイヌ民族と共に	1・2・3・4前		2				○						兼1
	アジア侵略と宗教	1・2・3・4後		2				○						兼1
	非戦の系譜	1・2・3・4前		2				○						兼1
	仏教福祉論	1・2・3・4後		2				○						兼1
	小計(27科目)	—	0	54	0	—	—	—	0	0	0	0	0	兼21
	現代総合科目小計	—	0	152	0	—	—	—	0	2	0	0	0	兼44

教育課程等の概要															
(教育学部 教育学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
諸課程科目	保育実習Ⅰ	3後			4			○		1				兼1	集中
	保育実習指導Ⅰ	2後			2			○		2				兼2	
	保育実習Ⅱ	3後			2			○		1				兼1	集中
	保育実習指導Ⅱ	3前			1			○		2				兼2	
	保育実習Ⅲ	3後			2			○	1	1				兼2	集中
	保育実習指導Ⅲ	3前			1			○	1	1					
	子どもの保健Ⅰa	1前			2	○								兼1	
	子どもの保健Ⅰb	1後			2	○								兼1	
	子どもの保健Ⅱ	2前			1			○						兼1	
	子どもの食と栄養	1前			2			○						兼1	
	乳児保育	1後			2			○						兼1	
	乳幼児心理学	2前			2			○			1			兼1	
	社会的養護内容	3前			2			○		1					
	家庭支援論	3前			2	○								兼1	
	青年心理学	3前			2	○								兼1	
	保育相談支援	3後			2			○						兼1	
	保育心理士実習	4後			1			○	1		1			兼1	
	保育心理士実習指導	4後			1			○	1		1				
	臨床心理学	3後			2	○								兼1	
	小計(19科目)		—	—	35	—	—	—	2	4	1			兼8	
合計(241科目)		—	72	402	35	—	—	10	7	2	0	0	兼92		
学位又は称号			学士			学位又は学科の分野			教育学関係・保育学関係						
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
①共通基礎科目18単位(人間学Ⅰ・Ⅱ8単位、大学導入科目2単位、必修外国語8単位) ②学科専門科目86単位 <初等教育コース>演習16単位、概論4単位以上、講義[A]から6単位以上、講義[B]から30単位以上、実践研究[A]4単位以上、実践研究[B]から18単位以上、卒業研究8単位を修得 <幼児教育コース>演習16単位、概論4単位以上、講義[A]から6単位以上、講義[B]から28単位以上、実践研究[A]4単位以上、実践研究[B]から20単位以上、卒業研究8単位を修得 ③自己選択科目として、学科専門科目、現代総合科目及び他学部開講科目のなかから興味・関心により履修する科目を20単位以上 ①～③の科目を修得し、124単位以上を履修すること *必修外国語は英語Ⅰ・Ⅱの8単位であるが、学生の希望により、文学部に開講するドイツ語、フランス語、中国語、韓国・朝鮮語を履修させることができる *履修科目の登録単位数の上限は、年間48単位まで								1学年の学期区分		2期					
								1学期の授業期間		15週					
								1時限の授業時間		90分					

(注)

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校等の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学部 教育学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
共通基礎科目 コース共通 総合科目	人間学Ⅰ	本講義では、大谷大学に学ぶ私たち自身の問題を考えるための土台を形成することを目的とする。前期では、釈尊伝をもとに仏教の思想が照らし出す人間のあり方から、自分自身の生き方を考え学んでいく。時には、仏教以外の哲学や思想、現代の社会問題にも触れながら、授業を進めていく。また、人間学の重要なテーマとして人権問題学習を行う。後期では、前期の学習を引き継ぎつつ、親鸞の生涯と思想を通して、自己や人間について考え学ぶ。また親鸞の思想以外の広いテーマを取り上げることで、現代を生きる人間の具体的な問題について考える視点を学んでいく。	
	人間学Ⅱ	人間学Ⅰで学んだ釈尊伝を基礎にして、さらに深く釈尊伝について学ぶ。ゴータマ・シッダールタと呼ばれた青年がブッダ（目覚めた者）と呼ばれた意味を確かめる。この授業のなかで仏教の基礎的知識を身につける。そして、仏教の根本課題を明確に捉えることができればよい。そのことを通して、自己と他者への理解を深め、主体的にしかも共に生きる歩み方を模索する。	
	人間学Ⅱ	インドで興った仏教は、中央アジア・中国・朝鮮半島を経て日本へ伝来した。また、南方諸地域にも広がっていった。仏教は、各地の文化と接触し、それぞれ特徴的な変容を遂げていった。仏教の伝播は単に思想交流のみにとどまらず文化交流というにふさわしい、文化変容ももたらした。本講義では、仏教伝播を担った各地の仏教者がどのようにかかわっていったのか、その生涯を踏まえながら感じ取り、その意味を考える機会とする。	
	人間学Ⅱ	親鸞は人間が生きる確かな根拠を「真宗」という言葉によって明らかにした。その親鸞の確認を受けとめていく時、人間はどのように生きていくことができるのか、その手がかりを親鸞以降の浄土真宗の歴史に尋ね、混迷する現代社会の中に身を置く私たち一人ひとりの人生の課題を考察していく。本講義ではそのことを、蓮如の生涯と言葉を中心に講義していく。	
	人間学Ⅱ	本学初代学長清沢満之の生涯と思想を学ぶことを通して、大谷大学建学の精神に触れていく。清沢が「自己の信念の確立」（真宗大学開講の辞）という言葉で表現する建学の精神は、さらに佐々木月樵によって「本務遂行、相互敬愛、人格純真」という「本学に於ける人格陶冶の三モットー」（大谷大学樹立の精神）として展開されていく。大谷大学のこれまでの歩みにも触れながら、本学に学ぶ私たちに願われていることを確かめていく。	
	人間学Ⅱ	本学の正門と北門に毎月掲示される「きょうのことば」は、真宗・仏教の精神を教育と研究の基盤とする大谷大学における学びを明らかにするものであり、あわせてその解説文も作成されている。これまで掲示されてきた「きょうのことば」を取り上げ、その言葉が生まれてきた背景や意味を学ぶことを通して、一人ひとりに問いかけられていることを確かめ、人間が生きることの課題について考察していく。	
	人間学Ⅱ	現代社会が抱える様々な問題を捉えることによって、人間とは何かという問いについて考える。また、仏教の人間観を学ぶことによって、現代社会の様々な問題をどのように捉えておくべきか考察する。幅広い仏教の知見によって人間や社会の諸相を分析し、いかにして我々が抱える問題を解決する手がかりを得ることができるのか検討することになる。	
	人間学Ⅱ	人として生きるとはどのようなことなのか、そしてそのことに宗教がどう関係しているのかについて考察する。宗教に関する幅広い知識を身につけ、宗教の根本課題を確かめて、宗教の持つ意味について学ぶ。〈宗教〉や〈人間〉をあらゆる角度から分析することによって、大谷大学の〈建学の理念〉に基づく主体的な歩み方について考えることになる。	
人間学Ⅱ	宗教的・思想的な営為のなかに〈自然〉がどのように織り込まれているのかに着目する。精神文化と自然環境との繋がりを理解することになる。自然観・環境観を学ぶことを通して、人間社会をとりまく自然環境に関する知見を深める。そして、我々のあり方を根本的に見つめ、いかに社会や文化の発展に貢献することができるか考えることになる。		

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通基礎科目	総合科目	人間学Ⅱ	哲学的思考とは、世界の中で起こる具体的な問題について、その具体性をいったん取り除いた後に残る抽象的な枠組をその問題の本質として捉えようとする試みである。ともするとその抽象性ゆえに難解で浮世ばなれした印象を持たれることもある哲学であるが、その抽象性の目的は、この世界の問題を正確に考えるためのものであり、その問題への答えがいつでもどこでも誰にでも当てはまるようにするためなのである。ここでは、様々な哲学者の著作に学びつつ、私たちがいま抱えている悩み、小説や映画の中で出会った疑問、ニュースで知った不条理について考えていく。	
		人間学Ⅱ	千年の歴史を誇る都・京都は、永く政治・文化の中心としてその存在を誇ってきた。また多くの寺社が所在し、京都は宗教都市でもあった。最新の研究成果を踏まえながら、宗教都市の歴史・空間構造・特色を理解しつつ、寺社を中核に形成された門前町の歴史・景観・文化・住人・将来像を考えたい。また、実在する門前町の実態と、京都市の都市行政としての門前町の将来について考える機会としたい。	
		人間学Ⅱ	文芸は、人の心を豊かにし、人の世を長閑にする言語芸術である。人間を理解する上で、人間を感動させる文学の研究は、好適な分野の一つであると言える。文芸作品の世界を明らかにするために、具体的な課題設定のもとで、言語表現に関する適切な知識を身につけ、表現内容を主体的に追究することは、文学研究として個々の文芸作品の価値を見出すだけでなく、作品世界に映し出された精神の普遍的価値を探究する営為である。こうした一連の学修過程において、人間をめぐる諸問題の解明、および人間への本質的理解を目指す。	
		人間学Ⅱ	障害者差別解消法が、平成28年4月から施行され、障害者差別の問題は社会全体の課題としてクローズアップされている。大学においても、障害学生の履修支援への合理的配慮が求められている。しかし、障害者を取り巻く現状は、偏見や無理解に基づく差別があり、決して楽観視できるものではない。では、私たちは、障害のある人もない人も、互いに、その人らしくともに安心して暮していける社会を、いかに実現していけばよいのだろうか。本授業では、こうした問題意識に基づきながら、障害者の人権問題に焦点を当てて考える。	
		人間学Ⅱ	私たちが、互いを尊重しながら、豊かな関係を築き、社会全体の幸福を求めようとするとき、何よりも自他の人権に配慮して生きることが大切となってくる。しかし、現状では、様々なハラスメント（アカハラ、パワハラ、セクハラ等）をはじめ、部落差別、民族差別、障害者差別、性差別、人種差別など多くの差別問題が、解消されていない。本授業では、世界や日本社会に存在する様々な差別問題について学びつつ、合せて、差別意識を抱える人間存在そのものの問題についても見つめながら、人権問題について考える。	
		人間学Ⅱ	当該科目では、人々が生活する場所の自然環境を多角的に捉え、環境因子について学ぶとともに、人々が自然環境とどのように向き合ってきたかを講義する。生活の場は、日本を中心に扱うが、比較のため諸外国の例も示す。具体的には、地形、地質、気象、植生、動物相、水文、自然災害等について学び、それらに関わる文化事象について詳述する。	
必修外国語	大学導入	学びの発見	大学で学ぶためには、様々な資料を読み解き、そこから自らの意見を論理的に展開しなければならない。そこで、初年時教育として、資料の収集方法を知り、資料の論理構造を理解した上で、自らの志向の過程を論理的に展開する力を養成する。具体的には、資料を読んでその要点をまとめたうえで、他者との交流を通してアイデアを上げ、論理的な文章を書く作業を行いながら、レポートを作成する。その成果を他者に伝え、ディスカッションすることで、自らの学びを自己評価できるようにする。	
	英語Ⅰ	大学に入学するまでの学習で身につけた基本的な語彙、文法事項を確認するとともに、英語の背景にある文化や歴史に目を向けながら、さまざまな分野の話題に関する英文を読んで、英語の四技能（英語を聴く能力、話す能力、読む能力、書く能力）のそれぞれを、バランスよく伸ばし、英語運用能力を高める。またこれらを通して、英語圏における「論理展開」を理解し、英語の思考能力の基礎を身につける。		
	英語Ⅱ	身近で幅広いジャンルの英文を読み、さまざまな社会や文化への理解を深めて視野を広げながら、「英語Ⅰ」で身につけた英語の四技能（英語を聴く能力、話す能力、読む能力、書く能力）のそれぞれをさらに発展させ、それらを統合的に用いて英語で発信する能力を育成する。またこれらを通して、英語圏における「論理展開」を理解し、論理的な構想力を養う。		

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
学 科 専 門 科 目  初 等 教 育 コ ー ス  講 義 A	小学校教育学演習Ⅰ	演習Ⅰは、クラス編成を20人以下として、小学校教員として必要な読む・書く・聞く・話す等のコミュニケーション・スキルの基礎的訓練を行う。授業は、コミュニケーション教育、フィンランドの小学校教育など小学校教育にかかわるテキストを講読し、受講生が分担して報告を行い、報告後に意見交換を行う演習形式で進めるが、具体的には、発表の仕方やレジュメの作り方、建設的な意見交換の仕方等も指導していく。必要に応じてグループ活動も採用し、言語能力の育成と共に対人関係能力や感情調整能力の訓練も行う。	3クラス開講
	小学校教育学演習Ⅱ	演習Ⅱは、内容的には、教育学・心理学の双方に関わりのあるテーマ（子ども、発達、学校などの現実的な問題）を扱ったテキストを使用し、現実的な問題を具体的に取り上げ考えることを通じて受講生の狭い経験を揺さぶり相対化する場面を設定する。そしてディスカッションを通じて多様なものの見方があることを知り、一面的なものにとらえ方を脱し、多様な価値観の存在を認めることのできる柔軟かつ冷静な態度を身につける機会を提供する。	3クラス開講
	小学校教育学演習Ⅲ	演習Ⅲは、クラス編成を6人程度として、10人の担当者の専門に基づく内容に即してゼミ発表・討議を実施する。受講生は、各自関心のある問題の中から卒業研究のテーマを見つけることが課題となるが、ゼミ発表の際には、自分の伝えたいことを他者に理解してもらうためには、どのように伝え方を工夫する必要があるか、各自プレゼンテーションを体験しながら、コミュニケーション・スキルを開発することを目指す。	10クラス開講
	小学校教育学演習Ⅳ	演習Ⅳは、クラス編成を6人程度として、10人の担当者の専門に基づき、各自の報告を元に授業を進めていくが、同時に卒業研究の指導も行う。受講生は、卒業研究の作成を目標に、各自選択したテーマを卒業研究にまとめながら、論理的説得的に自分の伝えたいことを文章化する過程で、他者の理解を前提にどのように研究論文を構成し文章を書く必要があるかを工夫しながら、文章構成力やプレゼンテーション能力を鍛錬することを目指す。	10クラス開講
	教育原論（小）	本講義では、「教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想」を理解することを目的とする。その目的を実現するために以下の四点を講義内容とする。①教育の概念を複数の観点から明らかにすること。②教育の概念の具体化としての教育実践の歴史を概観すること。③教育実践を規定する教育思想の歴史を概観すること。④教育実践と教育思想の歴史が流れ込む今日の教育のあり方を、初等教育の観点から教科指導と道徳教育を中心として見ていくこと。	
	仏教と教育（初等）	本学の学びの特徴である仏教に立脚した教育の学びから、自身の「教育観」を主体的に構築する視点を学ぶ。具体的な「教師」モデルの教育観と実践内容、教師としての姿勢と役割についての学びなどから、適宜グループワーク等を行い、対話的な学びから、深い学びへと展開する。そして本学の目指す教師の資質と願いを学びの指標としながら、一人ひとりが自己省察を通して主体的に「教師」になる意義を確認し、子どもたちと「ともに生き・ともに育ち合う教育実践者」に成り続ける姿勢を身につける。	
	教育学概論Ⅰ	周知のようにファン・ゴッホは突如として、既存の絵画を模倣する凡庸な画家から、狂気に憑かれながら独創的な絵画を描き上げる芸術家へと生成変化した。このとき、彼は発達することで模倣能力を獲得したのだから、発達と生成変化の間には内在的なつながりがあると考えられる。本講義では、フランスの思想家ドゥルーズ＝ガタリの理論に依拠し、この発達と生成変化の内在的なつながりに着目しながら「教育とは何か」という原理的な問いを改めて問い直し、教育を再定義することを試みる。	
	教育学概論Ⅱ	子どもは単に人間へ向けて変容するばかりではない。この人間化を一時的に中断して、子どもは例えば、蝶を追いかけながら蝶を模倣し、風とともに走りながら風を模倣し、テレビスクリーンに映し出されたクジラに好奇心を抱きながらその鳴き声を真似し……というような逆人間化も行う。本講義では、この人間化と逆人間化を包摂する子どもの生の多元性をその全体において捉えるために、「贈与ー生成変化の人間変容論」という子ども理論を構築することを目指す。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学 科 専 門 科 目  初 等 教 育 コ ー ス  講 義	特別支援教育概論（初等）	本講義では、①特別支援教育の定義、理念、②特別支援学校・特別支援学級等制度、③特別支援学校の教育課程、④通常の学校を支援する特別支援学校のセンター的機能、⑤学校間連携（スクールクラスター）、⑥特別支援教育の動向、などについて、法令・審議会報告、学習指導要領などに基づいて取り上げる。	
	教育人間学Ⅰ	仏教思想では人間存在の本質を、「関係性」においてのみ生かす「縁起的存在」とみる。他者と争い傷つけてやまない今日の混乱した状況は、このような視点の欠落にもとづく自己中心的生命理解に起因するものと考えられる。本講義では、教育者となろうとする学生に対して「縁起的存在」という視点から、人間とは何か、生きるとはどのような事態なのかについて考察する。ブッダをはじめとするさまざまな哲学者・思想家の言葉を通して、各人が主体的に思索する態度が求められる。	
	教育人間学Ⅱ	今日の知性重視の教育において、仏教をはじめとする宗教思想や哲学が伝統してきた問いを学び、人間存在の本質に主体的に迫ろうとする知的作業は特に重要である。人間存在の本質を追求することは、やがて他者の痛みを理解し、相互敬愛の共同社会を志向する態度を生み出すことへと繋がる。本講義は「教育人間学Ⅰ」の発展形として、特に「他者とのつながりを生かす」という問題に焦点を絞って学修を進める。さまざまなレベルで理想的共同社会の形成を志向した思想家たちの言葉や経験を学ぶことによって、考察を深めていく。	
	教職入門（小）	本講義では、今日の学校教育の現状と課題を整理し、教職の意義及び教員の役割、教員の職務内容等について理解することを目指す。特に小学校では、教科や教科外活動を通して総合的に教育が行われている現状を理解し、子どもたちが生きて行く過程で必要となる考える力の育成という課題を小学校教育でいかに実現すればよいかを探究する。本講義の目的は、本学の仏教精神に基づく教育を基に、子どもたちの幸せを願って行われる学校教育のあるべき姿を考え、教職という職業を選択するための様々な情報や体験の機会を学生に提供することである。	
	教育心理学（小）	教育心理学は、教育に関係する様々な事柄について心理学的に研究し、効果的な教育の展開に役立つ知見や技術を提供する学問である。この授業では、教育心理学の主要4領域である「発達」「学習」「パーソナリティ」「評価」について、具体的な研究事例や体験学習等のアクティブ・ラーニングを通して見識を深め、知識をどのように小学校教育へ生かしていくかを考える。また、発達障害や不適応行動などの教育的問題を取り上げ、個々の児童の特性と状況に応じた支援のあり方についても検討する。	
	発達心理学（小）	小学生が学校生活で経験する学習面、心理・社会面、健康面での発達課題について講義する。具体的には、小学校低・中・高学年に分けて、各時期の認知、思考、社会性の各領域における発達の特質や差異に関する幅広い知識を習得し、児童期にわたる発達の变化の全体像の把握を目指す。その上で、心身の適応的な発達を促す教育実践につながる心理学的な知見や技術について考察する。また、障害のある児童に対しても、その認知特性に配慮した支援の可能性について検討する。	
	教育社会学（小）	本講義では、教育現象を社会学の視点から見る事が重要となる。まず、学校や学級という仕組みが社会の変化に伴ってどのように形成されてきたのか、教師と児童との関係はどのようなものかを考える。次に、いじめや体罰などの逸脱現象が、どのようなメカニズムで生じるのかを事例から学び、解決策を模索する。さらに、近代家族やジェンダー、学歴、「子ども」という観点から、現在の家族や人間関係に関わる問題と教育の問題を接合できる思考を養う。教育を幅広い視野から考察することで、教師としての資質向上を目指す。	
教育行財政学（小）	教育行政というと何か縁遠く、自分の力の及ばない世界のように感じている学生諸氏も多いのではないだろうか。教育は学習活動や学習活動を通じた生徒と教師の関わりの質に最大の意義と重要性があることは誰も否定しないだろう。しかし、児童に最善の利益を考え、教員が良い教育実践ができるためには、一人の教員の力では限界がある。諸条件（たとえば学校の施設設備）が整えられなければならない。本授業では、教育行財政の意義を理解し、日本の教育行政の基本原則と仕組み、様々な政策課題と国レベル、地方レベルの行政の関係と役割、学校と行政の関係などを学び、日本の教育が支えられ、推進されている仕組みを理解する。		

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
学科専門科目 初等教育コース 講義 B	教育課程論 (小)	<p>本講義では、小学校の教育課程の編成・理論的背景・評価等について学ぶことを目的とする。教育課程編成の伝統的な6類型の構造と、その理論的背景を習得する。さらに教育課程編成の原理（スコープとシーケンス、年齢主義と履修主義など）の意義を確認し、実際の編成（教科、道徳科、特別活動等）を学習する。さらにさまざまな評価方法とともに、近年着目されているカリキュラム・マネジメントの重要性についても考察する。</p>	
	特別活動論 (小)	<p>本講義は、「集団活動」「個性の伸長」「人間関係」「生活」の諸概念をより深く理解するために、原理的な諸理論を紹介する。また発達の見点から乳幼児期～児童期（思春期初期）の人間関係及び集団と生活について論じる。そして、活動における「目的」の意味、「学級活動」「児童会活動」「クラブ活動」「学校行事」について具体的に見ていく。これらを踏まえて、グループごとに学校行事（集団宿泊的行事）の指導計画を作成し、クラスで検討する。</p>	
	教育方法論 (小)	<p>教育方法の原理として、伝達観、助成観、形式陶冶、実質陶冶、子ども中心主義と教師中心主義について概観する。次に、教育理論として問題解決学習、系統学習、範例方式の授業、探求学習、仮説実験授業などについて概説する。求められる学力と一斉学習、個別学習などの学習方法・形態について考察する。また近年着目されているICT教材の使用法と実践例などについて学び、子どもが効果的に学ぶことができる教育方法について考察する。</p>	
	生徒・進路指導論 (小)	<p>今日の教育問題多発の現状を理解し、それに対応する教育実践力の育成を目指す。教育実践の基盤としての生徒（生活）指導の意味と意義を、実際の教育活動の事例に即して学ぶ。本講義では、子ども理解と教育相談の能力の向上を重要視し、教育問題への対応力を危機管理として捉え、その実践力を高めることを目標としている。また、進路指導の問題として、キャリア教育などを通して将来の就業へのイメージ作りを行う意義や体験学習や調査学習を通じた進路選択の重要性を学ぶ。</p>	
	教育相談 (小)	<p>今日の小学校現場で生じているさまざまな問題に対処するため、教育相談は、児童期の身体的・知的・情緒的発達に関する理解の上に立ち、一人ひとりの子どものあり方や家庭を含む生活環境に適した支援をすることが求められている。本講義では児童期の発達に関する心理学的な知見やカウンセリングに関する基礎知識、発達障害とその支援などについて学び、担任一人ではなく、学校として協働して子どもを援助していく方法について学ぶ。</p>	
	子ども教育史 I	<p>本講義は、「子どもはなぜ学校へ行くのか」を考えるため、近代学校と子どもとの関わりをテーマとする。まずは西欧における近代以前と近代以降の子どもたちの生活を人間形成という観点から対比し、子ども観・教育観の変遷について学ぶ。次に、国民教育制度の成立との関わりで西欧社会の近代学校の成立過程に注目する。そして西欧の近代学校が日本における教育の近代化に及ぼした影響についても目を向ける。</p>	
	子ども教育史 II	<p>本講義は、「子どもはなぜ勉強することを期待されるのか」を考えるため、近代家族と子どもとの関わりをテーマとする。近代家族の普及・大衆化が実態として進行した高度成長期に注目し、地域社会・家族・学校の変化に伴い、子どもの教育がどのように変わったかを確認する。次に、高度成長期以降、現在に至る家族及び社会の変化を通して現在の教育問題の経緯を理解し、今後の方向を考察する。</p>	
探求ゼミ (算数) I	<p>アクティブ・ラーニングという教育思想を成功させるためには、静まりかえった教室にもアクティブ・ラーニングは存在するという価値観を共有する必要がある。授業は学習者の頭の中で起きているならば、視覚的に観察されない、あるいは、聴覚的に観察されない、深い能動的な学習が個々の学習者の頭の中で展開されることがあるという認識を持つことが大切である。本講義では、アクティブにしたいものは意欲と思考であるという教育観に基づき、アクティブ・ラーニングという教育思想が求めている算数科における授業のあり方について探求する。</p>		

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
学 科 専 門 科 目  初 等 教 育 コ ー ス  講 義  B	探求ゼミ（算数）Ⅱ	アクティブ・ラーニングという教育思想が実現させようとしている学級集団の姿は、学びたいという個々人の意志を学級全体のともに学びたいという集団の意志に育て上げ、その意志を自ら実現しようとするたくましい学習共同体の姿である。本講義では、算数を集団で学ぶ意義は、子どもたちに、自分自身の思考を深める謙虚さと、どんなことからでも学べるというたくましさや、自分と友人のよさに気づくことにあるという教育観に基づき、アクティブ・ラーニングという教育思想が求めている算数科における協働学習のあり方について探求する。	
	探求ゼミ（算数）Ⅲ	授業でアクティブにしたいものは、子どもたちのもっと学びたいという心と思考である。学びたいという心と思考をアクティブにするのは教員による発問である。教員がその瞬間、瞬間においていかに最適な問いを発するかということが、子どもたちの思考を高め、授業の質を高めることになる。発問は子どもの心を学習へと開くものでなければならない。本講義では、よい授業を行う上で大切な発問というコミュニケーション能力は深い教材研究からもたらされる能力であるという教育観に基づき、算数科の授業における発問のあり方について探求する。	
	探求ゼミ（理科）Ⅰ	本講義では、小学校理科の教材研究法・授業法開発の習得を目指す。産業革新・イノベーションが現在わが国の喫緊の課題であるが、初等教育における理科や科学教育が果たす役割は大きい。そこで、理科の四領域（物理・化学・生物・地学）の基礎的な知識を学ぶ。さらに、小学校理科が効果的に、能動的に行われるための実践的研究（アクティブ・ラーニング法を含む模擬授業・ふりかえり）を行う。中学校理科への接続も考慮した内容を含め、Ⅰでは「物質」を取り扱う。	
	探求ゼミ（理科）Ⅱ	本講義では、小学校理科の教材研究法・授業法開発の習得を目指す。産業革新・イノベーションが現在わが国の喫緊の課題であるが、初等教育における理科や科学教育が果たす役割は大きい。そこで、理科の四領域（物理・化学・生物・地学の基礎）の基礎的な知識を学ぶ。さらに、小学校理科が効果的に、能動的に行われるための実践的研究（アクティブ・ラーニング法を含む模擬授業・ふりかえり）を行う。中学校理科への接続も考慮した内容を含め、Ⅱでは「エネルギー」を取り扱う。	
	探求ゼミ（理科）Ⅲ	本講義では、小学校理科の教材研究法・授業法開発の習得を目指す。産業革新・イノベーションが現在わが国の喫緊の課題であるが、初等教育における理科や科学教育が果たす役割は大きい。そこで、理科の四領域（物理・化学・生物・地学の基礎）の基礎的な知識を学ぶ。さらに、小学校理科が効果的に、能動的に行われるための実践的研究（アクティブ・ラーニング法を含む模擬授業・ふりかえり）を行う。中学校理科への接続も考慮した内容を含め、Ⅲでは「生物・地球」を取り扱う。	
	授業心理学	授業とは、教育の場であると同時に、きわめて重要な人間関係の場でもあり、そこにはさまざまな心理学的な要因が関係している。授業は、子どもの知的な発達段階だけでなく、その年代特有のこころのあり方も考慮しなければ、うまく進めることはできない。さらに一人ひとりの児童の個性や動機づけに応じて、工夫する必要もある。授業をすることはどういうことか。授業において教師に求められることは何か。本講義では、授業を行う側が考えなければならないことについて心理学の立場から考えていく。	
	こどもの描画分析	一枚の絵から、描いた人のこころが強く伝わってくることもある。描画は、ことばになる前の、あるいはことばにならないことばなのだといえる。描画は、自己を表現し気持ちをおさめていく側面と、他者とのコミュニケーション媒体となる側面をもつ。描画活動を見守ってくれ、その絵を受けとめてくれる人がいる時、こどもはその世界の本質を表現する。本講義では、こどものこころを理解するための枠組みを、描画を通して学ぶ。	
	教室の心理学	「教室」は授業を受ける場所であることは言うまでもないが、それだけではなく、さまざまな人間関係の場でもある。教師と生徒、生徒と生徒、グループとグループ、個人とグループなどの中で展開される関係は、諸々の条件により日々流動する。教師として教室に関わる場合には、子ども一人ひとりを見ると同時に、他の子どもとの関係や教室全体を見ていくことが求められる。本講義では、授業だけではなく、教室の内外の人間関係や教室が学びに及ぼす効果や影響について、心理学的にとらえることを目指す。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考		
初等教育コース 学科専門科目	講義	B	障害のある子どもたち（初等）	本講義では、障害のある子どもたちへの適切かつ必要な指導・支援を行うための基礎として、障害のある子どもの特徴について講義する。特定の障害に限定せず、学校教育法及び同施行規則で述べられている障害種について、幅広く取り上げる。なお、通常の学級に発達障害の可能性のある子どもが約6,5%在籍していることから、発達障害に関しては詳しく取り上げる。	
			障害児の教育（初等）	本講義では、小学校における障害児の教育について、①通常の学級の教育課程、②特別支援学級の教育課程、③障害による困難を改善・克服するための通級による指導の教育課程、④指導計画と支援計画の作成と活用、⑤校長のリーダーシップのもとで、特別支援教育コーディネーターを中心とした校内支援体制などを取り上げる。	
			特別支援教育実践論（初等）	本講義では、小学校における障害のある子ども、および特別な支援を必要とする子どもの支援について、インクルーシブ教育システムの構築、そして合理的配慮の提供と基礎的環境整備の推進が求められている。このような時代の要請に応えるために、小学校教育の体験を踏まえて、実践的に学ぶ。	
			防災・安全教育（初等）	本講義は、喫緊の課題である学校運営・学級運営に関する防災・危機管理などの内容と子どもに対して行う防災教育・安全教育などの内容から構成される。火災、地震などの災害の予防及び防災計画の作成、防災管理委員会の設置などの組織的な対応と「大震災時における実際の対応事例」から、子どもの安全確保、引き渡し、安否確認の仕方、避難所の開設や運営の仕方を学ぶ。また、日常の安全点検や避難訓練により災害時に安全に避難できる態度や能力を体得する子どもを育成する防災・安全教育について実践的に理解を深める。	
			ICT教育	本授業では、教育メディアの種類・特徴・機能及び現状について、理論的及び実践的側面から探究し、教育メディア活用の実践的な方法・技術を習得する。まず、メディアについて、メディア情報学をベースに、メディアの種類・特徴・機能及び現状について考察を行う。次に、ICT（情報通信技術）の種類や特徴について整理し、授業におけるICT活用について考究する。また、活用事例としては、各教科に共通する課題を対象に、「問題解決の科学」と称して、効果的な学習方法について、具体的な検討を行う。	
		生涯学習概論	生涯学習及び社会教育の本質と意義の理解を図る。そのために、教育に関する法律・自治体行財政・施策を理解し、学校教育・家庭教育等との関連、並びに社会教育施設における学習活動の実態や課題を知る。そして、専門的職員の役割、人々の学習活動への支援の在り方について考え、認識を深める。		
	実践研究	A	実践体験活動演習（小）Ⅰ	本講義は、小学校の教育実践（4月～7月）に対して、ゲスト講師による講義・学校ボランティア体験活動・体験発表を通して多面的にアプローチする参加型・体験型の授業である。まずは、現職教員をゲストに迎えて学級経営・特別活動などの実際に関する講義を受ける。次に、受講者全員が小学校において学校ボランティアとして活動後、各自のボランティア体験を発表する。そして受講生相互に体験談を検討し合って授業へのフィードバックを図る。	
			実践体験活動演習（小）Ⅱ	本講義は、小学校の教育実践（9月～12月）に対して、ゲスト講師による講義・学校ボランティア体験活動・体験発表を通して多面的にアプローチする参加型・体験型の授業である。まずは、現職教員をゲストに迎えて授業・道徳などの実際に関する講義を受ける。次に、受講者全員が小学校において学校ボランティアとして活動後、各自のボランティア体験を発表する。そして受講生相互に体験談を検討し合って授業へのフィードバックを図る。	
		B	初等科教育法（国語）	学習指導要領における国語科の基本理念・指導方法などを再確認した上で、授業実践を行う上での留意点を明確にする。その後、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕の三領域一事項それぞれの授業について学習指導案を作成し、模擬授業を実施する。模擬授業後は共同研究会におけるディスカッションにより研究を深める。模擬授業においてはアクティブ・ラーニングとICTの活用留意する。学生が主体的に取り組む実践的な授業とする。	3クラス開講

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
学 科 専 門 科 目  初 等 教 育 コ ー ス  実 践 研 究  B	初等科教育法（社会）	本講義では、学習指導要領に基づき、小学校における社会科の指導目標、指導内容、指導方法について学ぶ。はじめに初等教育における社会認識の論理と自己教育力の関係について解説する。次に、自己教育力を育成するために必要な社会科の授業の構成原理を明らかにし、その原理に基づいて教材研究を行い、学習指導案を作成する。そして学習指導案に基づく模擬授業を実施して授業の分析・考察を行い、社会認識の育成を具体的に理解する。	3クラス開講
	初等科教育法（算数）	よい授業には感動がある。そして、「なるほど、なるほど、先生、だんだん分かってきたよ」という子どもたちのつぶやきがある。子どもたちはいかに考え学ぶのか、教員の発問で子どもたちの思考はいかに深まるのか、よい授業とは何か、こうした問いの探求を通して、本講義では、算数科の授業を準備する教材研究の方法、授業を行う指導の方法、授業から学ぶ授業研究の方法を講義する。本講義の目的は、アクティブ・ラーニングという教育思想に基づく算数科の授業を行うための指導の方法論について、基礎的な資質と能力を育成することである。	3クラス開講
	初等科教育法（理科）	学習指導要領に基づき、科学の基本的な見方や概念を柱に、小学校の発達段階を踏まえ、科学的な思考力・表現力を育成するため、観察・実験の結果を予想・整理・考察する学習活動（ICT機器の活用を含む）を充実するための指導のあり方、また、観察・実験や自然体験、科学的な体験を充実し、実社会・実生活との関連を重視した、子ども自身が興味関心を持って理科の面白さを実感できる学習活動（アクティブラーニング法を取り入れた）の進め方について、教師としての基礎的・基本的な素養を講義や実習を通して育成する。	3クラス開講
	初等科教育法（生活）	生活科の性格、目標、方法といった教科を構成する原理について学ぶ。社会、自然、人々との関わりの認識を通して、自立への基礎を養う教科として生活科をとらえ、生活科の基礎理論の習得及び授業実践の分析、授業計画作成の方法を理解する。また、生活科の教科理念を把握し、生活科の性格や目標、内容、授業構成の仕方、学習計画の立案、評価の方法など生活科の授業づくりに関する基本を理解することを目的とする。授業に班活動を導入し、自分の目指す生活科をイメージしながら積極的に意見を述べることを促す。	3クラス開講
	初等科教育法（音楽）	小学校学習指導要領における音楽科の目標、学年目標及び各領域の指導内容を理解する。「表現」と「鑑賞」の領域の関連を図った授業の構築の仕方、及び観点別学習状況評価に基づく指導に生きた評価の仕方について学び、模擬授業実施に向けて教材研究を行うと共に学習指導案を作成する。作成した学習指導案に基づき模擬授業を実施し、実践力を身につけるとともに、事後研究を行い、学習目標に照らし合わせて授業評価と分析を行う。また、子どもへの適切な称賛や支援の在り方についても習得する。	3クラス開講
	初等科教育法（図画工作）	図画工作科は、造形的な表現・鑑賞活動の過程を通して子どもたちに図画工作科の目標とする資質や能力を育てることを目指すものである。図画工作科の内容である「造形あそび」「絵に表す」「立体に表す」「つくりたいものをつくる・工作に表す」「鑑賞」についての指導を低・中・高学年の子どもの特性を踏まえ具体的な事例をもとに理解する。さらに、それらの教材研究をし、学習指導案を立案して模擬授業を行い、実践する力を習得する。	3クラス開講
	初等科教育法（家庭）	学習指導要領に基づき、家庭科の教科理念および指導方法を理解し、現代の初等家庭科教育の学習課題を明らかにする。特に、児童の生活実態、学習指導計画、学習指導方法の理解に重点をおき、実践的・体験的な学習を通して、小学校家庭科の教育内容や指導方法について理解を深めるとともに、自らの生活をよりよく改善できる実践力も身につけさせたい。その上で、具体的に学習指導案や教材を作成し、模擬授業を実施し、家庭科の授業を構想する力・実践力を育成する。	3クラス開講
	初等科教育法（体育）	小学校体育科の目標、内容、評価、指導方法などについて理解し、また、学年が上がるにつれて発展していく小学校体育の授業展開について考え、実践的指導力を身につける。このため、体育科教育の概念や目標を理解し、学習指導要領の内容に即して各学年の特性や各運動領域の意義・特徴を理解し、実践を想定した学習指導方法について考えていく。その上で年間計画を立て、教材研究を行って学習指導案を作成し、模擬授業を実施する。	3クラス開講

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
初等教育コース 実践研究 B 学科専門科目	初等科教育法（外国語活動）	本講義では、学習指導要領に基づき、小学校外国語活動の指導法の習得を目指す。とりわけ指導案作成と模擬授業を行うことで、児童が英語を楽しく学べるような指導法の習得を目指す。英語教材”Hi, Friends!”を使用した授業法を学ぶと共に、児童が積極的に英語を使用しようという意欲を喚起することを目指す。音声やリズムに慣れ親しみ、音声のコミュニケーションを楽しく行えるようにする。あいさつや自己紹介等、身近な生活の場面を設定した指導案作成と模擬授業を行う。	3クラス開講
	道徳教育の理論と方法（小）	本講義では、道徳教育の基盤となる理論の学習と、道徳科の学習指導案作成・模擬授業を通じた実践的指導力の育成を目的とする。道徳教育の思想（ソクラテス・カント等）や歴史（明治期以降）を考察し、学校教育における道徳科の意義を学ぶ。さらに学習指導要領から道徳の目的・内容を理解し、学習指導案・教材作成を行う。具体的に小学校低学年・中学年・高学年の副読本を使用し、模擬授業を通して指導力を養う。	3クラス開講
	教科（国語）	小学校教育における国語科の教育内容、教材研究の方法や指導法・評価法などの理論を正確に理解する。教育内容については、学習指導要領や国語科教育の構造との関係などから概観する。教材研究の方法・指導法については、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の三領域一事項それぞれについて考察する。書写の指導法に関しても理解を深める。学生による発表・ディスカッションを中心とした主体的な授業とする。発表時には、短時間の模擬授業の実施やICTの活用を試みる。	3クラス開講
	教科（社会）	教育基本法における教育の目標、学校教育法における義務教育の目標に示された達成観点をふまえ、学習指導要領社会科の内容について解説をして理解を得ることを目標とする。そこで社会科の目標及び内容を理解し、指導計画作成上の留意点や指導上の留意点について具体的な理解を図る。発達段階をふまえた基礎的・基本的な内容の理解を重視し、学び方や調べ方の学習、体験的な学習等を取り入れた問題解決的な学習の進め方について、教材選択、授業の組み立て、授業展開、資料活用等の工夫の観点から具体的な理解を深める。	3クラス開講
	教科（算数）	子どもたちが問題に主体的に取り組み、自らの思考を深めていく授業を行うためには、教員が教材に込められている数学的な意味、そして、教材の系統性を理解していなければならない。解き方を教える授業ではなく、考え方を教える授業を行うためには、教材研究は必要不可欠である。よい発問を導くのは深い教材研究である。本講義の目的は、小学1年から6年までの具体的な単元の教材研究を通して、アクティブ・ラーニングという教育思想に基づく算数科の授業を行うための教材研究の方法論について、基礎的な資質と能力を育成することである。	3クラス開講
	教科（理科）	本講義では、子どもたちに科学的な思考力・表現力を育成するために、学習指導要領の内容をふまえ、小学校・中学校を通じた学習内容の構造化を図りながら、「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」などの科学の基本的な見方や概念から、小学校理科の学習内容を教えるために必要な基礎的・基本的な内容を精選し、講義や実習（実験・観察）等を通して教材研究・教材開発などの能力の育成を目的とする。科学の知識や理科教材に関して幅広い視野を持てるように、科学読み物読書・身近な自然観察記録などの継続的な課題にも取り組む。	3クラス開講
	教科（生活）	生活科創設の経緯をふまえ、生活科の目標・学習内容・学習活動の特色を明らかにする。そのため、具体的な事例を取り上げ、実際に調べる、つくる、遊ぶといった活動を構成し、グループ協議・全体協議を通して、「自立への基礎を養う」という目標、「自然とのかかわり」「人・社会とのかかわり」「自分」という学習内容、フィールドワーク、主体的な探究活動、体験的な活動、思考と表現の一体化を図る交流活動といった学習活動についての理解を深める。	3クラス開講
	教科（音楽）	小学校音楽科における基礎・基本である共通事項・楽典について体験を通して学び、各学年に応じた表現領域及び鑑賞領域の指導法を理解する。そして、子どものよさを認める評価の在り方や自信を持たせる支援の在り方等指導技術について簡単な模擬指導を通して学ぶ。また、歌唱や楽器（リズム打楽器・リコーダー・ピアノを含む鍵盤楽器）の演奏を通して表現の技能を習得すると共に、仲間と協力して表現をつくり上げる経験をする。	3クラス開講

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
初等教育コース 実践研究 B 学科専門科目	教科（図画工作）	小学校図画工作科の目標・指導についての理論と実際を理解する。図画工作科における表現および鑑賞の活動は、形や色、材料や場所などの特徴をもとに、描いたり作ったりする活動であり、造形的な活動の喜びを十分に体験させることが重要である。図画工作科の目標に示された能力と情操を、その内容「A表現(1)楽しい造形活動をする」「A表現(2)絵や立体、工作に表す」「B鑑賞(1)関心をもって見る・鑑賞し、良さや美しさに親しむ」を通して育成するための指導法について、理論と実践例を示す。	3クラス開講
	教科（家庭）	小学校時代は、家庭科教育の入門期にあたる。この時期に家庭生活について考え、基礎的な知識・生活技能を習得することは、子供たちの現在の生活を充実させること、さらには、将来自らが家庭を作ることへの意欲や希望につながっていく。本講義では、家庭科の特質と学習の意義、家庭科という教科の歴史的変遷について解説する。また、現在の家庭の諸問題について理解を深め、教科の内容を学び、最後に模擬授業を行って、受講者が互いに評価を行うことで、生き生きとした授業実践の方法を考えていきたい。	3クラス開講
	教科（体育）	小学校体育科における各運動領域の指導に必要な運動技能を習得し、自らが運動に親しむ姿勢を育む。そのために各運動特性について理論的に理解し、理論に基づく学習指導の実践力を身につける。また、小学校教諭として児童が楽しめる指導方法、安全に配慮した指導方法を考える。本講義では、小学校学習指導要領の内容に即した各運動領域を受講生自らが体験することによって、その特性を理解し、児童の学年に応じた指導方法を考える。また、保健については教室での講義を行い、指導に必要な知識を学習する。	3クラス開講
	教科（外国語活動）	本講義では、小学校外国語活動の理論と実際について学ぶ。また授業を行うための基本的な知識や技術、授業法について学ぶ。チャンツや英語の歌・ダンスを使用して、英語教育の基礎知識・技法を学習する。具体的にはDVD等の視聴覚教材や電子黒板、グループワーク等を体験しながら学ぶ。また英語教材「Hi, Friends!」の内容を考察するとともに、小学生が楽しく学べるような教材研究を行う。同時に現在のグローバル社会における英語教育の意義を習得する。	
	教育実習指導（小）	小学校における教育実習の意義と内容について理解を深め、教育実習によって、観察・教育活動への参加・授業の実習を行い、指導の方法・対応を学ぶことを目標とする。特に、「教育実習の意義」「教職員の職務」「学校の組織」「教育活動・教育課程」「学習指導・生徒指導の実際」「学校行事」「学校における児童の日常生活の様子」「児童の見方・とらえ方」「実習記録の記入の方法」など「教育実習生の心得」について講義、演習、質疑応答などにより具体的に理解し、教育実習に臨む姿勢と心構えについて学び、意欲的に実習ができるようにする。	
	教育実習Ⅰ（小）	小学校において所定の期間、教育活動の実際について観察・教育活動への参加、授業の実習を行う。授業の実習においては、学習指導要領に基づく指導案の立て方、指導計画の立て方、授業の組み立て方、板書の方法、授業展開の仕方、評価の方法などについて担当の教師から具体的な指導のもとで授業実習を行い学ぶ。また、教科外の指導の実践と理解、事務処理の具体的な理解、日常の生徒指導状況についての理解と共に、教師としての服務・職務内容、実務内容について理解し、教師としての人間性、情熱・意欲を学び取るようにする。	
	教育実習Ⅱ（小）	小学校において所定の期間、教育活動の実際について観察・教育活動への参加、授業の実習を行う。授業の実習においては、学習指導要領に基づく指導案の立て方、指導計画の立て方、授業の組み立て方、板書の方法、授業展開の仕方、評価の方法などについて担当の教師から具体的な指導のもとで授業実習を行い学ぶ。また、教科外の指導の実践と理解、事務処理の具体的な理解、日常の生徒指導状況についての理解と共に、教師としての服務・職務内容、実務内容について理解し、教師としての人間性、情熱・意欲を学び取るようにする。	
	教職実践演習（初等）	本演習は、教職課程の総仕上げとして教員（小学校教諭・幼稚園教諭・保育教諭）としての資質・能力の向上を目指す。内容としては、①教員としての使命感・責任感・教育的愛情、②社会性や対人関係能力の向上、③幼児児童理解と学級経営の理解、④教科・保育内容の指導力向上についてとりあげる。講義のみならず、指導案作成・模擬授業・保育を行う。また外部講師（現職教員）による講義や、小学校・幼稚園等の研究発表会への参加など現場の実情を知る機会を設け、教員としての知識・技術の習得を目指す。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
初等教育コース 実践研究 B	小学校プログラミング演習	本授業では、小学校におけるプログラミング教育について、理論的な側面をベースに、実践的な側面までを視野に入れて演習を行う。まず、初等中等教育に一貫した情報学教育の観点から進め、授業者のこれまでの経験を活かして、単にプログラミングの演習に留まることなく、この教育により培われる「新しい資質・能力」の育成までを視野に入れ、プログラミング的思考、情報思考（Info-thinking）創造的想像（Creative Imagination）などの学問的背景を踏まえ問題解決に重点を置く。	
	音楽実技Ⅰ-3	小学校、幼稚園、保育園、認定こども園の教員、保育教諭、保育士が現場での指導や保育に必要なピアノの演奏技術や歌唱力を身につける。音楽を通して幼児・児童の豊かな感性や表現力・創造力を引き出すために必要な音楽表現技術の基礎を学ぶ。歌唱では音程やリズムを正確に歌える技能を身につける。ピアノにおいては正確な読譜力と運指法を習得し、曲想豊かに表現するための基礎技能を学ぶ。Ⅰ-1、Ⅰ-2は保育者向け、Ⅰ-3は小学校教諭向けの授業である。	
	音楽実技Ⅱ-3	小学校、幼稚園、保育園、認定こども園の教員、保育教諭、保育士が現場での指導や保育に必要なピアノの演奏技術や歌唱力を身につける。音による表現とは何かを考えながら曲に相応しい音楽表現ができる能力を習得することを目標とする。学生自らが音楽の楽しさを十分に味わい、音楽表現力や創造力を高め、幼児・児童に豊かな音楽経験を提供できるようになることを目指す。Ⅱ-1、Ⅱ-2は保育者向け、Ⅱ-3は小学校教諭向けの授業である。	
	運動会実践演習	本演習では学生自らが運動会を企画・運営し、教員としてのマネジメント能力（企画力・組織運営力）の習得を目的とする。小学校で行われる運動会では、児童が楽しく競技しあうことはもちろんであるが、その背後に教員の周到な準備が求められる。以下の3点を授業目的としたい。①安全な環境づくり（事故の起きない環境設定）、②企画能力の向上（競技項目の選定）、③組織運営力の修得（他の教職員との連携、保護者や地域住民との連携）。	
	おおたにキッズキャンパス演習Ⅰ	本演習では、地域社会における学校の役割が重視される近年において、地域社会と学校の連携実践の現状と課題を知り、児童の豊かな人間性を育成する学習・交流の場を地域住民と協力しながら作り出していく意義や手法を学ぶ。Ⅰでは、大学近隣の児童を対象としたキッズキャンパス（夏季）の企画・運営・実践を通して、児童理解・望ましい集団のあり方などを考察し、将来の学校運営・学級運営の基礎的な能力を養う。この企画では図工や理科の体験教室を開催し、児童の学習意欲を高め、自らの学習習慣を確立することを目指す。	
	おおたにキッズキャンパス演習Ⅱ	本演習では、地域社会における学校の役割が重視される近年において、地域社会と学校の連携実践の現状と課題を知り、児童の豊かな人間性を育成する学習・交流の場を地域住民と協力しながら作り出していく意義や手法を学ぶ。Ⅱでは、大学近隣の児童を対象としたキッズキャンパス（冬季）の企画・運営・実践を通して、児童理解・望ましい集団のあり方などを考察し、将来の学校運営・学級運営の基礎的な能力を養う。この企画では図工や理科の体験教室を開催し、児童の学習意欲を高め、自らの学習習慣を確立することを目指す。	
幼児教育コース 演習	幼児教育演習Ⅰ	演習Ⅰは、クラス編成を20人以下として、保育者として必要な読む・書く・聞く・話す等のコミュニケーション・スキルの基礎的訓練を行う。授業は、コミュニケーション教育、幼児の言葉の発達など幼児教育に関連のある内容のテキストを講読し、受講生が小グループごとで報告、意見交換を行う演習形式で進める。また、課題の理解、言語能力の育成と共に対人関係能力や感情調整能力の訓練も行う。	4クラス開講
	幼児教育演習Ⅱ	演習Ⅱは、内容的には、乳幼児教育・保育に関わりのあるテーマ（子ども、発達、幼稚園／保育所／認定こども園などの現実的な問題）を扱ったテキストを使用し、現実的な問題を具体的にとりあげ考えることを通じて受講生の狭い経験を揺さぶり相対化する場面を設定する。そしてディスカッションを通じて多様なものの見方があることを知り、一面的なものにとらえ方を脱し、多様な価値観の存在を認めることのできる柔軟かつ冷静な態度を身につける機会を提供したい。	4クラス開講

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
学科専門科目 幼児教育コース	演習	幼児教育演習Ⅲ	演習Ⅲは、クラス編成を9人程度として、9人の担当者の専門に基づく内容に即してゼミ発表・討議を実施する。受講生は、各自関心のある問題の中から卒業研究のテーマを見つけることが課題となるが、ゼミ発表の際には、自分の伝えたいことを他者に理解してもらうためには、どのように伝え方を工夫する必要があるか、各自プレゼンテーションを体験しながら、コミュニケーション・スキルを開発することを目指す。	9クラス開講
		幼児教育演習Ⅳ	演習Ⅳは、クラス編成を9人程度として、9人の担当者の専門に基づき、各自の報告を元に授業を進めていくが、同時に卒業研究の指導も行う。受講生は、卒業研究作成を目標に、各自選択したテーマを卒業研究としてまとめながら、論理的文章や制作等の表現の過程で、他者の理解を前提にどのように表現していく必要があるかを工夫しながら、文章構成力、表現力やプレゼンテーション能力を鍛錬することを目指す。	9クラス開講
	概論	教育原論（幼）	本講義では、「教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想」を理解することを目的とする。その目的を実現するために以下の四点を講義内容とする。①教育の概念を複数の観点から明らかにすること。②教育の概念の具体化としての教育実践の歴史を概観すること。③教育実践を規定する教育思想の歴史を概観すること。④教育実践と教育思想の歴史が流れ込む今日の教育のあり方を、幼児教育の観点から発達と遊びを中心として見ていくこと。	
		仏教と教育（初等）	本学の学びの特徴である仏教に立脚した教育の学びから、自身の「教育観」を主体的に構築する視点を学ぶ。具体的な「教師」モデルの教育観と実践内容、教師としての姿勢と役割についての学びなどから、適宜グループワーク等を行い、対話的な学びから、深い学びへと展開する。そして本学の目指す教師の資質と願いを学びの指標としながら、一人ひとりが自己省察を通して主体的に「教師」に成る意義を確認し、子どもたちと「ともに生き・ともに育ち合う教育実践者」に成り続ける姿勢を身につける。	
	講義 A	教育人間学Ⅰ	仏教思想では人間存在の本質を、「関係性」においてのみ生かす「縁起的存在」とみる。他者と争い傷つけてやまない今日の混乱した状況は、このような視点の欠落にもとづく自己中心的生命理解に起因するものと考えられる。本講義では、教育者となろうとする学生に対して「縁起的存在」という視点から、人間とは何か、生きるとはどのような事態なのかについて考察する。ブッダをはじめとするさまざまな哲学者・思想家の言葉を通して、各人が主体的に思索する態度が求められる。	
		教育人間学Ⅱ	今日の知性重視の教育において、仏教をはじめとする宗教思想や哲学が伝統してきた問いを学び、人間存在の本質に主体的に迫ろうとする知的作業は特に重要である。人間存在の本質を追求することは、やがて他者の痛みを理解し、相互敬愛の共同社会を志向する態度を生み出すことへと繋がる。本講義は「教育人間学Ⅰ」の発展形として、特に「他者とのつながりを生かす」という問題に焦点を絞って学修を進める。さまざまなレベルで理想的共同社会の形成を志向した思想家たちの言葉や経験を学ぶことによって、考察を深めていく。	
		発達心理学（幼）	この授業は、胎児期から老年期までの心身発達の諸相について学び、自分が将来かわかる子どもを生涯発達の観点から理解することを目的とする。「自我」「認知」「言語」「社会性」といった主要な発達の側面に関しては、具体的な研究事例や体験学習等のアクティブ・ラーニングを通して見識を深め、知識をどのように幼児教育や保育実践へ生かしていくかについて考える。また、発達障害の基本的知識を身につけ、障害のある子どもについての理解を深める。	
		特別支援教育概論（初等）	本講義では、①特別支援教育の定義、理念、②特別支援学校・特別支援学級等制度、③特別支援学校の教育課程、④通常の学校を支援する特別支援学校のセンター的機能、⑤学校間連携（スクールクラスター）、⑥特別支援教育の動向、などについて、法令・審議会報告、学習指導要領などに基づいて取り上げる。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
学 科 専 門 科 目  幼 児 教 育 コ ー ス  講 義	A	保育原理 I	本講義では、保育の理念や基礎理論、歴史的変遷を理解することを目的とする。そのため、以下の五点を講義内容とする。①保育の意義について理解する（子どもの最善の利益、保護者との協働、保育所保育指針の制度的位置付け等）、②保育所保育指針における保育の基本（養護と教育の一体性、環境を通して行う保育、発達過程の考え方等）、③保育の目標と方法（生活と遊びを通して総合的に行う保育、PDCAサイクル等）、④保育の思想と歴史的変遷（諸外国と日本の保育の思想と歴史）、⑤保育の現状と課題（諸外国と日本の保育の現状と課題）。	
		教職入門（幼）	本講義では、教職の意義や教師の役割、その職務内容について解説する。そこで、今日の子育ての現状、幼児期の特性、幼稚園教育の重要性をふまえながら、教育基本法や学校教育法の理念、幼稚園教育要領および幼保連携型認定こども園教育・保育要領における幼児教育の基本や教育課程の編成、ねらいと内容について基本的なことがらを理解する。教師の服務・職務内容等と自らの教職への適性・意欲等とを関連させ熟考して進路選択することの重要性について理解を図り、幼児教育に携わる意欲や心構え・意識をもつ。	
		教育学概論 I	周知のようにファン・ゴッホは突如として、既存の絵画を模倣する凡庸な画家から、狂気に憑かれながら独創的な絵画を描き上げる芸術家へと生成変化した。このとき、彼は発達することで模倣能力を獲得したのだから、発達と生成変化の間には内在的なつながりがあると考えられる。本講義では、フランスの思想家ドゥルーズ＝ガタリの理論に依拠し、この発達と生成変化の内在的なつながりに着目しながら「教育とは何か」という原理的な問いを改めて問い直し、教育を再定義することを試みる。	
	B	教育学概論 II	子どもは単に人間へ向けて変容するばかりではない。この人間化を一時的に中断して、子どもは例えば、蝶を追いかけながら蝶を模倣し、風とともに走りながら風を模倣し、テレビスクリーンに映し出されたクジラに好奇心を抱きながらその鳴き声を真似し……というような逆人間化も行う。本講義では、この人間化と逆人間化を包摂する子どもの生の多元性をその全体において捉えるために、「贈与・生成変化の人間変容論」という子ども理論を構築することを目指す。	
		こども教育史 I	本講義は、「子どもはなぜ学校へ行くのか」を考えるため、近代学校とこどもとの関わりをテーマとする。まずは西欧における近代以前と近代以降の子どもの生活を人間形成という観点から対比し、子ども観・教育観の変遷について学ぶ。次に、国民教育制度の成立との関わりで西欧社会の近代学校の成立過程に注目する。そして西欧の近代学校が日本における教育の近代化に及ぼした影響についても目を向ける。	
		こども教育史 II	本講義は、「子どもはなぜ勉強することを期待されるのか」を考えるため、近代家族と子どもとの関わりをテーマとする。近代家族の普及・大衆化が実態として進行した高度成長期に注目し、地域社会・家族・学校の変化に伴い、子どもの教育がどのように変わったかを確認する。次に、高度成長期以降、現在に至る家族及び社会の変化を通して現在の教育問題の経緯を理解し、今後の方向を考察する。	
		教育課程論（幼）	本講義では、幼稚園および幼保連携型認定こども園における計画や評価の意義、幼児教育の質向上と実践の全体構造（計画、実践、省察・評価、改善）について理解し、指導計画の実際と展開について、子ども観から教育の目的・方法と計画の一貫性を意識しながら、実際に計画作成、相互分析・検討を行い、指導計画や指導案作成の留意事項への気づきとともに、臨機応変な展開の可能性を学び、実践力向上へとつなげる。	2クラス開講

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
学科専門科目 幼児教育コース 講義 B	教育方法論 (幼)	<p>(概要) 本講義では、幼児教育の方法及び技術について、基礎理論や幼児教育における教育方法としての遊び活動の展開を取りあげるとともに、情報機器や教材の活用について具体的に理解する。</p> <p>(オムニバス方式／全30回)</p> <p>(15 西村美紀／15回)            幼児教育における教育方法を検討するための基礎理論を理解し、幼児教育の特色を知る。特に、子どもの育ちを実現する遊びの原理とそれに基づいた諸活動の展開方法、幼児教育における教材論、育ちや保育の評価と幼児教育の質の向上について検討する。さらに、外国人幼児のいるクラスなど、多文化な環境における幼児教育の方法論について学び、子どもの育ちと文化の関係について考察する。</p> <p>(67 堀田博史)／15回)            多様な幼児期のメディア利用の是非について具体的な事例をもとに解説をする。また近年注目される保育でのメディア活用のアイデア(方法と技術)を得るために、実際に幼児向け教育番組、マルチメディアそしてデジタルカメラを活用した保育の実例を見ながら、自らの保育方法を検討する。授業は、グループワークを中心に進める。</p>	2クラス開講 オムニバス方式
	教育社会学 (幼)	<p>教育社会学とは、教育事象を個人の心理に還元してしまわずに、1つの社会現象ないし社会的事実としてとらえ、これを社会的視点や方法によって考察する学問である。本授業では、ヒトの誕生から成人までの社会化のプロセスを追いながら教育を理解していくミクロな視点、政治・経済・情報システム等、他の社会制度との関係をめぐって教育を理解していくマクロな視点、以上2つの視点から教育と社会を見つめ直し、その関わりを検討することで、社会事象としての教育を客観的かつ体系的に理解することを目指す。</p>	
	教育心理学 (幼)	<p>教育心理学は、教育に関係する様々な事柄について心理学的に研究し、効果的な教育の展開に役立つ知見や技術を提供する学問である。この授業では、教育心理学の主要4領域である「発達」「学習」「パーソナリティ」「評価」について、具体的な研究事例や体験学習等のアクティブ・ラーニングを通して見識を深め、知識をどのように幼児教育や保育へ生かしていくかを考える。また、発達障害や不適応行動などの教育的問題を取り上げ、個々の幼児の特性と状況に応じた支援のあり方についても検討する。</p>	
	授業心理学	<p>授業とは、教育の場であると同時に、きわめて重要な人間関係の場でもあり、そこにはさまざまな心理学的な要因が関係している。授業は、子どもの知的な発達段階だけでなく、その年代特有のころのあり方も考慮しなければ、うまく進めることはできない。さらに一人ひとりの児童の個性や動機づけに応じて、工夫する必要もある。授業をすることはどういうことか。授業において教師に求められることは何か。本講義では、授業を行う側が考えなければならないことについて心理学の立場から考えていく。</p>	
	こどもの描画分析	<p>一枚の絵から描いた人のところが強く伝わってくることもある。描画は、ことばになる前の、あるいはことばにならないことばなのどといえる。描画は、自己を表現し気持ちをおさめていく側面と、他者とのコミュニケーション媒体となる側面をもつ。描画活動を見守ってくれ、その絵を受けとめてくれる人がいる時、こどもはその世界の本質を表現する。本講義では、こどものところを理解するための枠組みを、描画を通して学ぶ。</p>	
	教室の心理学	<p>「教室」は授業を受ける場所であることは言うまでもないが、それだけではなく、さまざまな人間関係の場でもある。教師と生徒、生徒と生徒、グループとグループ、個人とグループなどの中で展開される関係は、諸々の条件により日々流動する。教師として教室に関わる場合には、子ども一人ひとりを見ると同時に、他の子どもとの関係や教室全体を見ていくことが求められる。本講義では、授業だけではなく、教室の内外の人間関係や教室が学びに及ぼす効果や影響について、心理学的にとらえることを目指す。</p>	
	音楽理論	<p>幼稚園、幼保連携型認定こども園等において、幼児の音楽表現活動を支えるために幼稚園教諭が身につけておかなければならない幼児音楽の指導、援助のための技能には、楽譜やリズムに関する知識が必要である。本講義では幼稚園教諭・保育教諭として必要な音楽理論の基礎について、子どものうたを使って学習する。基本的な楽譜の読み方や伴奏付けの理論を、実際に楽器を使いながら学習する。また、幼児の音楽的発達を踏まえ、必要な援助についても学ぶ。就職試験や実践現場で必要とされるリズム打ちや移調譜の書き方についても学習する。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
学 科 専 門 科 目  幼 児 教 育 コ ー ス  講 義  B	教育相談（幼）	幼稚園や保育所、幼保連携型認定こども園等における教育相談は、幼児ならびにその家族に生じる様々な問題を理解し対応することによって、子どもの育ちを援助し、保護者の子育てを支援することである。問題の所在に気づき、その意味を考え、具体的な援助について考えることができるようになるため、本講義では幼児期の発達についての心理学的な知見、カウンセリングや遊戯療法に関する基礎知識、保護者の育児不安、幼児期に見られるさまざまな障害とその支援などについて学ぶ。	
	保育原理Ⅱ	保育は、保護者の子育てを支援する仕組みであるとともに、なにより乳幼児期という人間形成の重要な時期の教育を担う時期でもある。本講義では、保育所、認定こども園、幼稚園における保育がどのような制度や法律に基づいているのか理解することを目的とする。具体的には、以下の三点を講義内容とする。①保育制度に関わる法令等の概要、②保育に関わる制度や政策の歴史の変遷や動向と権利保障、③保育制度、政策の今日的課題。	
	児童家庭福祉	本講義においては、現代社会で多様な課題を抱える児童福祉について検討し、今後の動向、展望について考察することを目的とする。具体的には以下の五点について論じる。①現代社会における児童家庭福祉の意義と歴史の変遷、②児童家庭福祉と保育との関連性及び児童の人権、③児童家庭福祉の制度や実施体系等、④児童家庭福祉の現状と課題（少子化、保育ニーズの多様化、虐待防止等）、⑤児童家庭福祉の動向と展望。	
	社会福祉	本講義では、現代社会における社会福祉の意義や役割、課題について理解を深めるために、以下の五点について論じる。①現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷、②社会福祉と児童福祉及び児童の人権や家庭支援との関連性、③社会福祉の制度や実施体系、④社会福祉における相談援助や利用者の保護にかかわる仕組み、⑤社会福祉の動向と課題について。	
	児童文化	児童文化は、子どもの生活全般にかかわるものであるが、現代の子どもをとりまく文化的環境は多様化を極めている。とりわけ絵本や玩具など、乳幼児の身近な文化財については、その質量ともに大きな変容を示しており、それらを選択し手渡すおとなの役割が重要になっている。この授業では、児童文化財（保育教材）の活用・伝達をととして、それらが子どもの心身の発達に及ぼす影響について考察するとともに、授業中に作製した玩具等を実際に子どもが使用する機会を設けて、遊びを豊かにする児童文化財の意義や役割を実践的に学ぶ。	
	社会的養護	社会的養護の仕組みや考え、歴史的経緯を理解した上で、今日的課題、特に被虐待児への理解を深め、そこで活躍する保育士とその他専門職の役割、あるべき姿について考察する。具体的には、以下の内容について学ぶ。①現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷、②社会的養護と児童福祉の関連性及び児童の権利擁護、③社会的養護の制度や実施体系、④社会的養護における児童の人権擁護及び自立支援、⑤社会的養護の現状と課題について。	
	障害のある子どもたち（初等）	本講義では、障害のある子どもたちへの適切かつ必要な指導・支援を行うための基礎として、障害のある子どもの特徴について講義する。特定の障害に限定せず、学校教育法及び同施行規則で述べられている障害種について、幅広く取り上げる。なお、通常の学級に発達障害の可能性のある子どもが約6,5%在籍していることから、発達障害に関しては詳しく取り上げる。	
	特別支援教育実践論（初等）	本講義では、小学校における障害のある子ども、および特別な支援を必要とする子どもの支援について、インクルーシブ教育システムの構築、そして合理的配慮の提供と基礎的環境整備の推進が求められている。このような時代の要請に応えるために、小学校教育の体験を踏まえて、実践的に学ぶ。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
学 科 専 門 科 目  幼 児 教 育 コ ー ス  実 践 研 究	講義	B	防災・安全教育（初等）	本講義は、喫緊の課題である学校運営・学級運営に関する防災・危機管理などの内容と子どもに対して行う防災教育・安全教育などの内容から構成される。火災、地震などの災害の予防及び防災計画の作成、防災管理委員会の設置などの組織的な対応と「大震災時における実際の対応事例」から、子どもの安全確保、引き渡し、安否確認の仕方、避難所の開設や運営の仕方を学ぶ。また、日常の安全点検や避難訓練により災害時に安全に避難できる態度や能力を体得する子どもを育成する防災・安全教育について実践的に理解を深める。	
	実践研究	A	実践体験活動演習（幼）Ⅰ	本演習では、幼稚園等保育現場における幼児教育実践についての事前指導と園見学、保育ボランティア体験、演習形式のふりかえりを通して、体験的に「子ども理解」を深める。まずは、事前指導として保育・幼児教育現場の保育者の講義、保育ボランティアについての事前指導、および園見学への参加を通して保育ボランティアについて理解する。次に、受講者全員が保育現場において保育ボランティアとして活動し、各自のボランティア体験をふまえ、1ヶ月に1度程度、小グループでふりかえりを行う。4名の教員で担当し、小グループでの振り返りにおいて、それぞれのグループを指導する。	
			実践体験活動演習（幼）Ⅱ	本演習では、実践体験活動演習（幼）Ⅰに続いて、幼稚園等保育現場において、継続的な保育ボランティア体験、定期的な演習形式のふりかえりを通して、体験的に「保育者の意図の理解」と「保育のねらいと方法の関連性」について理解を深め、その他の授業や保育実習指導につなげる。4名の教員で担当し、小グループでの振り返りにおいて、それぞれのグループを指導する。	
			運動会実践演習	本演習では、学生自らが運動会を企画・運営し、教員としてのマネジメント能力（企画力・組織運営力）の習得を目的とする。小学校や幼稚園、保育所、認定こども園等で行われる運動会では、子どもたちが楽しく競技しあうことはもちろんであるが、その背後に教員・保育者の周到な準備が求められる。以下の三点を授業目的とした。①安全な環境づくり（事故の起きない環境設定）、②企画能力の向上（競技項目の選定）、③組織運営力の習得（他の教職員との連携、保護者や地域住民との連携）。	
			おおたにキッズキャンパス演習Ⅲ	本演習では、本学附属幼稚園の園外保育の遊び内容を企画実施することで、幼児理解を深めるとともに、企画力や実践力を高める。また、京都市北区や柴明学区といった近隣自治体との連携で定期的実施される子育て支援の取り組みに参加することで、現在、保育者の職域に含まれる地域における子育て支援について体験的に学習するとともに、大学として地域の子育て家庭への支援を行う。3名の教員で担当し、小グループでの活動において、それぞれのグループを指導する。	
	B	教育実習（幼）Ⅰ	幼稚園・幼保連携型認定こども園において所定の期間、教育及び保育活動の実践について観察・活動への参加、教育及び保育の実習を行う。実習においては、幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく指導案の立て方、指導計画の立て方、保育の組み立て方、教材作成の方法、教育及び保育展開の仕方などについて担当の教師から具体的な指導のもとで実習を行い学ぶ。また幼稚園教諭の仕事の内実を体験的に理解する。実際に幼児とかかわることを通じて、自分の子ども観と教育及び保育観を培う。		
		教育実習（幼）Ⅱ	幼稚園・幼保連携型認定こども園において所定の期間、教育及び保育活動の実践について観察・活動への参加、教育及び保育の実習を行う。実習においては、幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく指導案の立て方、指導計画の立て方、保育の組み立て方、教材作成の方法、教育及び保育展開の仕方などについて担当の教師から具体的な指導のもとで実習を行い学ぶ。また幼稚園教諭の仕事の内実を体験的に理解する。実際に幼児とかかわることを通じて、自分の子ども観と教育及び保育観を培う。		
		教育実習指導（幼）	幼稚園・幼保連携型認定こども園における教育実習の意義と内容について理解を深め（事前指導）、教育実習の体験をふりかえり、以下の事項について確認する。特に「教職員の職務」「幼稚園・幼保連携型認定こども園の組織」「教育活動・教育課程」「指導の実際」「園行事」「幼稚園・幼保連携型認定こども園における幼児の日常生活の様子」「幼児の見方・とらえ方」についてふりかえりを行い、実践力を身につける。複数の教員で担当し、グループ討議の際や個別作業の際など、それぞれのグループを指導する。		

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学 科 専 門 科 目  幼 児 教 育 コ ー ス  実 践 研 究  B	教職実践演習（幼）	本演習は、教職課程の総仕上げとして教員（小学校教諭・幼稚園教諭・保育教諭）としての資質・能力の向上を目指す。内容としては、①教員としての使命感・責任感・教育的愛情、②社会性や対人関係能力の向上、③幼児児童理解と学級経営の理解、④教科・保育内容の指導力向上についてとりあげる。講義のみならず、指導案作成・模擬授業・保育を行う。また外部講師（現職教員）による講義や、小学校・幼稚園等の研究発表会への参加など現場の実情を知る機会を設け、教員としての知識・技術の習得を目指す。	
	保育内容総論	本演習では、グループ討議などを行いながら、以下の5項目に着目しながら、養護と教育の領域を総合的に理解する。1. 保育所保育指針における「保育の目標」、「子どもの発達」、「保育の内容」等、各章の関連づけと保育の全体的な構造 2. 保育内容の歴史の変遷 3. 子ども理解と保育内容のかかわり 4. 養護（生命の保持、情緒の安定）と教育（健康・人間関係・環境・言葉・表現）の一体的展開 5. 保育の多様な展開。	2クラス開講
	保育内容（健康）の理論と方法	幼稚園教育要領及び幼保連携型認定こども園教育保育要領における、心身の健康に関する領域（健康）に示された観点から、身体的にも精神的にも成長過程にある幼児期の子どもの健康について、幼稚園教諭・保育教諭として必要な知識と技術について知る。子どもたちの置かれている社会状況を知り、健康に関して幼稚園等に期待される役割について考える。そして指導案づくり、模擬保育への取り組みを通して、自ら課題を見つけ、解決策を考える実践的な力を養う。	2クラス開講
	保育内容（人間関係）の理論と方法	幼稚園教育要領及び幼保連携型認定こども園教育保育要領における、心身の健康に関する領域（健康）に示された観点から、身体的にも精神的にも成長過程にある幼児期の子どもの健康について、必要な知識と技術について知る。身体の発達・運動の発達・生活習慣の形成などを知識として知るとともに、必要な支援の在り方を考える。また、子どもたちの置かれている社会状況を知り、健康に関して幼稚園等に期待される役割について考える。	2クラス開講
	保育内容（環境）の理論と方法Ⅰ	幼稚園教育要領及び幼保連携型認定こども園教育保育要領における、領域「環境」のねらい及び内容への理解を深め、幼児が身近な環境と能動的にかかわることを通して、周りの物事に対処し、生活の基本的な枠組みと事柄についての概念を形成し、生きるための力を獲得する過程を総合的に学ぶ。また講義と併せて教材研究並びに実践事例を活用し、保育実践に生かす活動に取り組み、幼児が周囲の様々な環境に関わり、好奇心から探究心へ、そして思考力を育む指導・援助法の基礎を実践的に学ぶ。	2クラス開講
	保育内容（環境）の理論と方法Ⅱ	領域「環境」のねらい及び内容への実践的な学びを展開する。講義の他、自然遊びや飼育・栽培等に取り組む。この取り組みや観察を通して、動植物の成長過程や季節的な変化を知り、子どもたちへ伝えることの意義と具体的な展開方法を知る。そして教材研究を深め、実践的な指導案づくり、模擬保育等を通して、幼稚園教諭・保育教諭として必要な知識と専門性を身につける。また幼児身近な環境に好奇心や探究心をもってかかわり、豊かな生活を創造できるような環境構成や支援のあり方を実践的に学ぶ。	2クラス開講
	保育内容（言葉）の理論と方法Ⅰ	幼稚園教育要領及び幼保連携型認定こども園教育・保育要領における、領域「言葉」のねらい及び内容への理解、乳幼児期の言葉の発達過程への理解を深め、子どもが自分の経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話すことを聞こうとする意欲や態度を育てる幼稚園教諭・保育教諭としての指導・援助の方法を学ぶ。また講義と併せて教材研究並びに実践事例を活用し、保育実践に生かす活動に取り組み、指導・援助法の基礎を実践的に学ぶ。	2クラス開講
	保育内容（言葉）の理論と方法Ⅱ	領域「言葉」のねらい及び内容への実践的な学びを展開する。講義形式の他、演習形式（グループワーク、実践発表）等の方法を取り入れ、適宜、視聴覚教材等を活用しながら、乳幼児の言葉の獲得の過程への学びを深める。また、教材研究を深め、実践的な指導案づくり、模擬保育等を通して、幼稚園教諭・保育教諭として必要な知識と専門性を身につける。さらに、乳幼児のよき共感者、援助者となるために、乳幼児の言葉の育ちを丁寧に考える視点や適切にサポートする力を実践的に養う。	2クラス開講

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
学 科 専 門 科 目  幼 児 教 育 コ ー ス  実 践 研 究  B	保育内容（表現）の理論と方法	幼稚園教育要領及び幼保連携型認定こども園教育・保育要領における、領域「表現」のねらい及び内容を知り、子どもが感じたことや考えたことを自分なりに表現することを理解し、豊かな感性を養い、イメージを広げるための指導・援助の方法の基礎を学ぶ。さらに保育に役立つ指導案や言葉がけの実際を造形の教材研究の中で実践的に学ぶ。また保育内容表現に至る歴史の変遷について学び幼児表現の今後の方向についても考える。	2クラス開講
	国語（幼）	幼稚園教育における「言葉」について、幼稚園教育要領に基づき考察した後、幼児期における言葉の発達について理論的に学ぶ。また、幼児の思考力や想像力、とりわけ豊かな言語感覚を養うのに適した幼年文学や絵本、紙芝居、人形劇等の保育教材における「言葉」の取り扱いについて考察する。幼稚園教諭としての国語力やコミュニケーション力の涵養にも配慮し、幼稚園教育の実践に生かすことのできる基礎力を養うため、それらの保育教材を用いた模擬授業も行う。	2クラス開講
	算数（幼）	幼稚園教育要領に基づき、また幼稚園教育と小学校教育との円滑な接続のため、幼児期の数量や図形の認知発達や幼児期の「遊び」の背景にある数理的な事柄を、小学校低学年を意識しながら学ぶ。また様々な事物・事象に数理的に深い内容があることを学び、論理的思考力を身につける。そして幼稚園教諭として子どもに関わる上で、必要となる算数指導能力の養い、教材研究の方法・指導法を理解し、幼稚園教育の実践に生かすための基礎力を養う。また模擬保育を通じて実践力を身につける。	2クラス開講
	体育（幼）	幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づき、乳幼児の運動遊びについての指導・援助方法等を学ぶ。そのために各運動特性について運動実践を通じて理解し、発達に応じた身体運動の重要性とその指導・援助法の実践力を身につける。そして幼稚園教諭・保育教諭としての基礎的な体力、運動技術を養う。また乳幼児が楽しめる指導・援助、安全に配慮した指導・援助を実践的に身につける。	2クラス開講
	音楽（幼）Ⅰ	幼稚園及び幼保連携型認定こども園等において、幼児の豊かな感性や表現力を引き出し、ともに音楽を楽しむために必要な音楽の基礎的な知識や技能を身につける。基本的な歌唱とピアノ演奏の技術を身につけ、幼児のうたに合わせた弾き歌いが出来るようにする。また、読譜と記譜法の基本を学び、幼児の声域に合わせた移調譜の作成も習得する。身近な小物打楽器を使ったリズム遊びや音楽を使った身体表現遊びなどのグループワークを通して音楽を身体で愉しみ表現する力を身につけ、模擬保育につなげていく。	2クラス開講
	音楽（幼）Ⅱ	幼稚園及び幼保連携型認定こども園等において、幼児の豊かな音楽表現活動を支えるために必要な音楽的知識とピアノ演奏、歌唱の技能を身につける。表情豊かに歌うことと共に、簡易伴奏やペダルの技法を習得して幼児に合わせた音楽表現の幅を広げる。実践現場に必要な、リズム楽器を使った音楽表現やステップのリズムを使った身体表現の音楽も学習する。また季節のうたや様々な子どものうたを通して歌詞の意味を考え、調性の変化を感じることで音楽的感性を養い、模擬保育を通して幼児の豊かな感性に共感できる力を身につける。	2クラス開講
	音楽実技Ⅰ	小学校、幼稚園、保育園、認定こども園の教員、保育教諭、保育士が現場での指導や保育に必要なピアノの演奏技術や歌唱力を身につける。音楽を通して幼児・児童の豊かな感性や表現力・創造力を引き出すために必要な音楽表現技術の基礎を学ぶ。歌唱では音程やリズムを正確に歌える技能を身につける。ピアノにおいては正確な読譜力と運指法を習得し、曲想豊かに表現するための基礎技能を学ぶ。Ⅰ-1、2は保育者向け、Ⅰ-3は小学校教諭向けの授業である。	2クラス開講
音楽実技Ⅱ	小学校、幼稚園、保育園、認定こども園の教員、保育教諭、保育士が現場での指導や保育に必要なピアノの演奏技術や歌唱力を身につける。音による表現とは何かを考えながら曲に相応しい音楽表現ができる能力を習得することを目標とする。学生自らが音楽の楽しさを十分に味わい、音楽表現力や創造力を高め、幼児・児童に豊かな音楽経験を提供できるようになることを目指す。Ⅰ-1、2は保育者向け、Ⅰ-3は小学校教諭向けの授業である。	2クラス開講	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
学 科 専 門 科 目  幼 児 教 育 コ ー ス  実 践 研 究  B	音楽 (幼) III	幼稚園教育要領及び幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づき、「豊かな感性」や「表現力」を、音楽を通して子どもたちの中に育てていくために必要な表現力を身につける。単に弾き歌いするだけでなく、歌詞に沿ったアーティキュレーションを理解し、リズム楽器や身体表現などを音楽表現に取り入れる応用力を身につける。幼児の年齢や場面に相応しい伴奏アレンジを考え、先歌いや立ち弾きなど、実践現場で必要な技術についても習得する。就職試験対策として、初見演奏、初見視唱、自由曲も学習する。	2クラス開講
	図画工作 (幼) I	幼稚園教育要領及び幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づき、幼稚園教諭・保育教諭を志す人のために基本的な材料を用い造形表現の基礎を学ぶ。絵の具や粘土などの材料に関する知識はオートマチックな技法を通して体験し、同時に製作を通じて自然を感じ、季節感をも視野に入れた造形内容を学ぶ。また多くの製作技法を体験することで造形感覚を身につけ、材料・用具に親しみ、その特性や効果的な扱い方を理解する。さらに模擬保育等を通して、実践力をつけ同時に学んだことをポートフォリオなどにまとめ上げる力を身につける。	2クラス開講
	図画工作 (幼) II	保育者を目指すものにとって必要な造形的な体験と知識を広げることを目的とする。メディア教育・壁面装飾を含めた多様な造形表現を習得し、実習等の実践に向けて保育造形・図画工作の実践能力を身につける。図画工作で学んだ技法をもとに平面技法を発達段階に即した教材内容を体験する。また乳・幼児の感覚を刺激する教材・内容その効果的、応用的な扱い方への理解を深め、幼児の発達と心理に即した指導案づくりをし、模擬保育等を通して、より実践的な力をつける。	2クラス開講
	図画工作 (幼) III	幼児造形に対する教材の開発や新たな造形遊びへの提案ができるようになる。小学校との連携について学ぶ。今まで学んだ図画工作の知識・技能を応用し、多様な表現力・発想力・思考力を使いながら学生自らがテーマ・材料・方法と教材研究を進める。さらに学んだことを教育者・保育者として社会に還元できるように、映像などで記録し分析する。環境・安全面への配慮も含め総合的な指導案、活動案づくりの習得を目指す。またグループで計画する模擬保育を通して、協働してひとつのものをつくりあげるよるこびを体験する。	2クラス開講
	言語表現	幼稚園教育要領及び幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づき、幼児期の言語の特徴を理解し、子どもの遊びを豊かにするために必要な知識・技術を身につける。そして幼児にとって身近な、言葉を中心とする教材（絵本、紙芝居、人形劇、おはなし等）の制作及び発表を行う。実際に創作し演じることを通して、幼稚園教諭・保育教諭として必要な技術の獲得、向上をはかるとともに、子どもと言葉の文化領域について理解を深める。また教材研究の方法・指導法を理解し、乳幼児期の保育実践に生かすための基礎力を養う。	2クラス開講
	野外活動	幼稚園等の野外活動の実際を学ぶ。幼稚園教諭として野外活動に向けての準備、内容、注意点などを学び、その面白さを伝えるための基礎的な知識とスキルを身につける。適宜学外講師などを招き、自然に関する知識やキャンプ等への知識を深める。そして野外活動で活用する教材の作成や、様々な活動内容やレクリエーション等の指導案を作成し、模擬保育を実践する。また実際の園の野外活動に参加し、幼児の活動内容や取り組む姿、幼稚園教諭の指導・援助方法を学び、より実践的なスキルを養う。	
	総合表現演習 I	領域「表現」の内容をふまえ、豊かな感性や表現力を養い創造性を豊かにする「表現」の意味について、協働して取り組む活動を通して考える。具体的には、グループごとに5領域に示された内容をもとにテーマを設定し、表現領域に関わる要素（言語表現、身体表現、造形表現、音楽表現）を取り入れた表現方法を用いて、舞台表現を企画・制作し発表する。	2クラス開講
	総合表現演習 II	本演習では、クラスごとにそれぞれのテーマにそって、領域「表現」に含まれる内容について、グループや個人別の活動を通して実践力を高める。1クラスでは、造形表現を中心に自己演出・表現を多様な価値・発想・技法のもとに重ねることにより、幅広い表現の方法、手段を学ぶ。2クラスでは、メロディやリズムから自己表現をしていく方法をリトミックやリズム遊びの技法を用いて習得し、実践的スキルを身につけるとともに、子どもの自己表現・音楽表現についてあらためて捉え直す機会とする。	2クラス開講

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科専門科目	幼児教育コース 実践研究 B	運動遊び指導法	幼稚園教育要領及び幼保連携型認定こども園教育保育要領に基づいて、子どもの運動発達の過程を知り、年齢に応じた多様な運動を引き出す運動遊びの指導方法について実践的に学ぶ。発達段階に合わせ、子どもの意欲を引き出して達成感をもたらしつつ安全に配慮した運動遊びの指導案作成と模擬保育を実施する。それらの取り組みを通じて自ら課題を見つけ解決策を考え、幼児教育に必要な実践力を身につける。	2クラス開講
		障害児保育	本演習では、保育所保育指針および幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づいて、障害児保育の理論と方法について、以下の六点を理解する。①障害児保育の理念（インクルーシブ教育・保育）や形態、②障害の概念・定義や歴史の変遷、③様々な障害児の理解と支援方法、④障害のある子どもの個別指導計画作成と記録、評価及び他の子どもとのかかわりのなかで育ち合う保育実践、⑤保護者や家族への理解・支援や関係機関との連携、⑥障害のある子どもの保育にかかわる保健・医療・福祉・教育等の現状と課題。	2クラス開講
		相談援助	保育所保育指針に基づき、事例を通して、以下の点について理解を深め、援助の技術を習得する。①相談援助の概要（相談援助の理論と意義・機能、バリエーションの7原則、相談援助とソーシャルワーク、保育とソーシャルワーク）、②相談援助の方法と技術（相談援助の対象、過程、技術・アプローチ）、③相談援助の具体的展開（計画・記録・評価、関係機関との協働、多様な専門職との連携、社会資源の活用、調整、開発等）、④相談援助事例検討。	2クラス開講
コース共通	卒業研究	卒業研究は、4年間の学習の集大成であり、その目標は、学生が各自選択したテーマを文献や資料の収集・読解・分析、フィールドでの実態調査、制作・表現など、各テーマに適切な方法を用いて卒業研究として仕上げることである。その意味で、研究成果自体も重視されるが、それ以上に、卒業研究指導教員は、4年間の学習（多様な価値観を認められること、自分の意見のプレゼンテーション能力、文章構成力など）が、学生にどう培われているかに力点を置いた卒業研究の指導・援助を行なうことになる。この指導は演習Ⅳの担当者が行なう。		
現代総合科目	キャリア形成系科目	日本国憲法	憲法が、国家と国民の間の約束事の性格をもつことを、日本国憲法の成立、基本的的人権、法の下での平等、思想・信条の自由、信教の自由、表現の自由、社会権、統治機構、国会、内閣、裁判所、地方自治など基本的な事項について理解する。また、憲法が持つ意義—国家の国民に対する約束ルール—を理解し、次に憲法が誕生した時代背景をビデオ資料をもちいて考察を深めていく。	
		発想から表現へ	本講義は、パソコンを使った文章の作成と研究の発表に関する入門講義である。(1)文章の構想メモの作成、(2)図表を入れた文章の作成、(3)発表用の資料の作成、(4)実際に資料を使ったプレゼンテーションの実施の4つの課題について、Microsoft WordやExcel、PowerPointなどのソフトに慣れ、様々な表現方法を実践し、自分の発想を多面的に表現できるようになることを目指す。個々が作成した課題は、中間発表会と最終発表会の2回の発表の機会を設ける。これらの課題作成と発表会を通して、レポート作成とプレゼンテーションの基礎的な技術を身につける。	
		思考法入門	演繹的且つ論理的に分析し、疑似科学や誤った論理、詭弁に惑わされないための思考力の修得を目指す。また現代社会が抱える様々な課題に対して自らの意見を持ち、判断することができるスキルの涵養を最終的な到達目標とする。近年、ある意見や議論に対して「賛成・反対」、「善い・悪い」という二元論で結論を導く風潮が強まっているが、それはともすれば思考停止を引き起こしかねない。そこで、思考停止に陥ったり、詭弁（虚偽の論法、おかしな論理）に惑わされないためのスキルを身につけることを目標に授業を進めていく。	
		日本語表現（入門）	大学での授業内課題やレポートの作成に必要な日本語表現能力を身につけることを目的とする。本授業では、第1週に「新しい作文・小論文の作成」、第2週に「作文・小論文の講評の後、書き直し」を行い、基本的に2週間で1セットのユニットとして進めていく。またそれらの前に講義と演習の時間を設ける。この授業で扱う作文の基本作法は大きく分けて三つあり、(1)原稿用紙の使い方、(2)自分と他者の意見の区別、(3)3部構成による小論文の書き方である。これらの習得を通じて、最終的には自分の主張を根拠立てて述べ、主張への批判に反論できる論理的思考・表現に到達することを目標とする。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
現代総合科目 キャリア形成系科目	日本語表現（実践）	基本的な文章構成や根拠のあげ方を学び、自分の「経験」や「思考」を人に分かりやすく伝える力を身につけ、レポート作成などの様々な場面で必要となる文章を書く力を身につける。具体的には、おおよそ4～5週間に1課題のペースで3つの文章を作成する。(1) 自らの経験という身近な話題を取り上げ、ていねいに書く。(2) 普段は見えにくい自らの価値観や世間一般の意識を取り上げ、根拠をあげながら論述する。(3) 上記2つの手法を使いながら、短めの「書評」を完成させる。	
	探究基礎演習	本講義は、課題探究型の学修<Project Based Learning (PBL)>をとおして、これからの社会で生きていくために必要とされる基礎的な汎用能力の育成を図り、キャリアデザイン能力を向上させることを目的とする。具体的には、グループワーク（実習）により次の4つの課題に取り組む。 ①フィールドワークの舞台となる京都市学校歴史博物館の存在価値を周知すること ②来館者数の増加を図るための取り組みを研究・企画すること ③京都市に対して①・②に関する取り組みの成果を提案すること ④上記①～③について、受講者の取り組みに対する評価方法を考案すること	
	ポルトガル語圏の くらしと言葉1	世界で約2億人を数えるポルトガル語圏諸国の人口のうち、その90%（1.8億人）を抱えるブラジルが、ポルトガル語を公用語とするに至った歴史的な経緯について概観するとともに、とりわけ、民族形成の背景となった宗教（キリスト教、他）や文学（寓話、民話）に注目して考察をおこなうことで、ブラジルの大衆文化についての理解を深めることを目指す。また、初歩的な文法の学修を通して、日常生活や旅行といった場面で使える実践的なブラジルポルトガル語の修得を目標とする。	
	ポルトガル語圏の くらしと言葉2	1990年に入管法が改正されたことで急増した在日ブラジル人の集住地域では、教育現場における子どもたちとの円滑なコミュニケーションが喫緊の課題として求められている。その際、単に語学としてブラジルポルトガル語を学ぶだけでなく、彼らの生活文化や習慣といった「くらし」を知ることが不可欠である。この授業では「ブラジリダーデ」と呼ばれる喜怒哀楽をはじめ、ブラジル文化の風土的特性や価値観を学修するとともに、基礎的な文法知識を踏まえた日常会話能力の向上を目指す。	
	インターンシップ1大学コンソ京都	本授業は、大学コンソーシアム京都による単位互換包括協定に基づく共同開講プログラムとして実施される。在学中に自らの専門分野や将来のキャリアに関連した就業体験をおこない、各自の研究活動やキャリアプランニングに役立てるとともに、企業や非営利組織において就業体験をすることにより、高い職業意識を育成する。また実社会での体験を現在の研究活動へ応用するとともに、自らのキャリアプランニングを明確にしていく。	
	インターンシップ2大谷大学	本授業は、就業体験を通じた将来像の明確化とコミュニケーション能力の涵養を目的とする。特に在学中に就業体験をおこなうことで、自分の将来像を明確にすることができるようになること、グループによる討論ならびに就業先での実務を通して、自身の意見を他者に伝え、また他者の意見を自身に取り入れ、コミュニケーション能力を高められるようになることが求められる。就業体験は、「働くこと」をテーマにした事前学習の受講とその成果をふまえて実施される。	
	キャリアデザイン概論1	「キャリア」とは就職に関することだけでなく「人生そのもの」を意味する言葉である。大学生生活を主体的に有意義に過ごすために必要な知識・態度などを身につけ、目標を持って大学生生活をデザインし過ごすことができるよう、考える機会を提供する。大学という場は「卒業後、どのような人生を送るのか」を考える上でとても大事な場であり、時間である。座学だけでなくエクササイズやグループワークを取り入れながら授業を進める。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
現代総合科目 キャリア形成系科目	キャリアデザイン概論2	「キャリアデザイン概論1」での学びを踏まえ、働くうえで必要とされる能力（特にコミュニケーション力）や社会現実についての理解、働くことと密接に関係している法・制度・システムに関する知識など、大学在学中から身につけておくことが望ましい基礎的な知識や能力の定着を目指す。講義形式で知識や情報を提供するほか、個人ワークやグループワークなどを取り入れながら進める。そして、大学生活を主体的に目標を持って過ごすことができるよう、自分自身の人生、大学生活の送り方について考える機会を提供する。	
	キャリアデザイン実践1	キャリアデザインとは、社会の中でどのように働き、どのように生きていくかを自分自身で考え、明確にすることである。一人ひとりが社会の中で自立して生きていくために必要とされる「社会人基礎力」について、グループワークを中心とした体験学習の中で、外部講師とともに考え、将来につながる学生時代の目標を立案する。この授業は主に第2学年を対象とする。	
	キャリアデザイン実践2	キャリアデザインとは、社会の中でどのように働き、どのように生きていくかを自分自身で考え、明確にすることである。一人ひとりが社会の中で自立して生きていくために何が必要なのか、自らの進路や将来について、グループワークを中心とした体験学習の中で、外部講師とともに考え、キャリアビジョンの計画を立てる。この授業は主に第3学年を対象とする。	
	ワード・プロセッシング入門	文章作成は現代社会人にとって必須のスキルである。そこで、文章作成のための技術や考え方をワープロソフトを利用して獲得する。具体的には、IMEによる日本語入力の基本を身につけ、Microsoft Wordの基本操作および書式・レイアウト・罫線・図形などの諸機能について学ぶ。これらを通じて、基礎的な各種文書の作成やデザイン・印刷の方法などを習得し、社会において必須の技能の獲得する。	
	ワード・プロセッシング応用	論理的な文章を作成するには、文章のアウトラインを作成しながら、思考を整理しなければならない。そのためのツールとしてワープロソフトが活用できる。そこで、日本語入力やMicrosoft Wordの基礎を習得している学生を対象に、アウトライン・スタイルなどの機能を用いた文書作成の方法を学ぶ。それとともに、総合演習課題（評論文の作成などを予定）への取り組みを通して、より応用的な文書作成の技術と思考の習得を目指す。	
	PC利用による表計算入門	数理解析の専門分野だけでなく、データベースの処理や文献の管理、予定の管理など、日常的の様々な場面で表計算ソフトを利用する必要がある。したがって、現代社会においてこの技能は必須のものである。そこで、この技術を獲得するためには、基本的なソフトの理解をしながら、その考え方を獲得していくことが効率的である。そこで、本授業では、Excel を利用した表計算についての基礎的な事項を学習する。それにより、情報の処理能力を高める。	
	PC利用による表計算応用	表計算を活用することで、様々なICTへの応用が可能となる。そのため基本事項は表計算ソフトを深く理解する必要がある。そこで、基礎的なExcelの活用を理解した上（「PC利用による表計算入門」の内容相当のことを理解している）で、Excel を利用した表計算について応用的な事項を学習する。具体的には、データベースにも活用できるような関数だけでなく、VBAなどのマクロを活用することで、多様な分野で活用できる力を養成する。	
	PC利用によるプレゼンテーション	コンピュータを用いたプレゼンテーションの手法の基礎について学ぶ。まず、画像の効果的な利用方法などを、Microsoft社製Powerpointを用いて練習する。次に、技術だけではなく、自分の考えをいかに相手に効果的に伝えるか、学会発表などでよく見られる発表形式を模擬することにより学習し、人前で発表出来るスキルを身につける。この授業を最後までやり抜けば、卒業論文・卒業研究を作成するために必要な知識が得られる。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
現代総合科目	キャリア形成系科目	PC利用によるレポート・論文技法	学術的な目的だけではなく、多様な目的でレポートや論文の作成技術は必要であり、現代社会では必須の力であるといえよう。論文やレポートの作成においては、PCを活用することでその効率は飛躍的に向上する。そこで、パソコン・ソフトを用いて、形が整ったレポート・論文を作成する。これにより、単にソフトの使い方に習熟するのではなく、他者に対して理解しやすい文章を作成する力を養成する。	
		画像処理入門	デジタル技術の発展により画像を使い、多様な表現が可能になった。ただし、多様な表現を実現するには、単に画像を使うだけでなく、それを処理することで可能になる。そのためには、デジタル画像とは何かということを理解した上で、適切な処理を行う必要がある。そこで、簡単な画像を作成し、画像を加工・編集しながら、コンピュータで画像ファイルを扱う基礎を学ぶ。これにより表現するとは何かということについて考える力を養成する。	
		画像処理応用	画像のデジタル化は画像処理を万人に開放した半面、基礎理解ができていないがために不適切な表現を示す可能性も増加した。この問題を解消するためには、本来の画像（アナログ画像）とデジタル画像の基礎知識や違いを理解した上で、デジタル画像を処理していく必要がある。そこで、デジタル画像以前の写真とデジタル画像の違いを実際に比較しながら、画像処理のノウハウを学ぶ。これにより、写真画像を適切に理解することで画像処理の基礎を確立し、デジタル時代にふさわしい画像制作をする力を養成する。	
		PCミュージック入門	音楽は人間にとって必要な娯楽である。かつては特殊技術であった音楽の作成がPCの出現により、専門家でなくとも可能になった。しかし、作成技術と適切な音楽とは必ずしも対応するものではない。適切な音楽を作成するには、デジタルデータとは何かといった基礎知識からその適性までを理解する必要がある。そこで、PCで音楽データを作る手法、MIDIデータや音源ファイルの概要および音楽の基礎を学ぶ。これにより音楽作成を楽しむとともに音楽とは何かということを考えるきっかけとする。	
		PCミュージック応用	デジタル技術の発展により多様な音楽的表現が可能になった。ただし、その実現のためにはソフトの理解ではなく、適切な知識をもとにその可能性を探ることが必要である。音楽的な知識の理解のためには、実際に音を作りながら考えるのが最も効率的である。そこで、PCによる音楽データの作成を通じて音楽に関するさまざまな知識を学ぶ。これによりデジタル技術を使った高度な音楽表現技術を養成するとともに、多様な表現技術やそのための思考力を身につけることを目指す。	
		Webサイト構築入門	情報発信ツールとしてWebの力は大きい。Webページのコンテンツ自体はツールを利用して作成できるが、より高度なデザインやWebページとは何かを理解するには、その基本原理であるHTML・CSSを理解する必要がある。また基礎を理解することで、情報発信のツールとしての特性も理解することができる。そこで、HTMLおよびCSSを利用し、Webサイト構築に必要な基礎知識・技術を学ぶ。これにより、情報社会の情報発信の意義を理解する。	
		Webサイト構築応用	Webの情報発信力の要因の一つは、インタラクティブな表現ができることにある。この表現にはJavascriptのようなプログラミングの理解が必要となる。そこで、Webの基礎であるHTML・CSS（Webサイト構築入門）の理解を発展した上で、Webサイト上でインタラクティブな表現をJavascriptによって構築する手法を学ぶ。これにより高度な情報発信力を養成する。	
自然生命系科目	生命のしくみと多様性	私たち「ヒト」は生命の中の一つの生命現象である。したがって、「ヒト」を理解するには「ヒト」という存在だけではなく、他の生物の関わりの中で理解しなければ、人間理解は成立しない。そこで、「ヒト」と他の生物（特に脊椎動物）の生命現象について、その概要を紹介する。ヒトとその他の生物を同時に学ぶことで、生物の多様性を認識し、ヒトの生命現象についてより深く理解することを目指す。		
	自然と生物の科学	人間を含めた生命は進化の過程を経て現在に至る。したがって、ヒトを含めた生命を理解するには進化とは何かということを理解しなければならない。進化は環境という要因によって成立するが、その環境とは自然である。そこで、生物の進化についていろいろな角度から考える。それにより、地球という環境の中で他の生命と関わる人間という観点をもち、人間とは何か、生命とは何かを考える基礎を養成する。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
現代総合科目 自然生命系科目	地震と火山1	地震や火山による災害は重要な問題である。この問題に対処するためには、そのメカニズムを知ることが重要である。そこで、地球の全体像と内部構造をはじめに学習する。その上で、地球表層で現在起こっている変動について、プレートテクトニクスを基礎として理解することを目指す。地震波を用いて地球の内部構造が如何に解明されるかを知った上で、地球変動の代表である地震や火山が、世界的に見れば限られた地域で起こる原因と、それらの発生のメカニズムを考察する。	
	地震と火山2	人間社会において、地震や火山活動がもたらす災害は多大なるダメージを与えている。したがって、地震や火山の活動に対しての防災意識を養成しなければならない。地震や火山のメカニズムを理解することは、深刻な災害に対して人間がどのように考え、対処すべきかの視点を与える。そこで、地震や火山のプレートテクトニクスとの関わりを学び、地震と火山の基礎知識を習得する。そして災害に対する備えや意識を持ち、地球科学と社会活動とのあり方を考える。	
	地球科学1	現在の自然環境を考えるうえで、自然を生み出す地球環境そのものの理解が重要である。地球環境を理解するためには多面的な理解が必要である。そのための視点として地球環境を構成するシステムについて理解する必要がある。そこで、地球表層で起こる気象現象や、地球を構成しているものについて学習する。その上で、地球のシステムが自然の道理の中で出来上がっている素晴らしいものであることを学習する。	
	地球科学2	現代社会や文化は人間という要因だけで成立するものではない。人間という要因以上に、その人間が暮らす環境を作り出した自然環境が重要といえよう。したがって、気候風土といった地誌的な背景をもとに人間生活を生み出す地球環境を理解する必要がある。そこで、自然環境を、主に地球のシステムや地史的背景から学習する。これにより自然科学的な視点を加えて、人間社会や文化が成立した要因や背景を考察する力を養成する。	
	地球環境と生命の共進化	「平均気温摂氏15度、酸素21%を含む1気圧の大気」、現在の地球はこのような穏やかな環境のもとにある。しかし、過去の地球はいつもこのように穏やかな環境にあったわけではない。46億年前太陽系の一員として誕生した地球は、灼熱の高温状態であった。その後徐々に冷却しながら海が生まれ、その中で生命の誕生と数々の生物進化を経て、生物と地球はお互いに影響を与えながら、その環境を変化させてきた。本講義では、宇宙誕生から地球誕生までの初期の地球環境形成史、先カンブリア時代の生命と地球表層環境の共進化、古生代・中生代・新生代の生物の進化・絶滅と地球環境の変化を関連付けて学ぶ。	
	こころの科学	心理学の基礎理論を理解することによって人間、とりわけ自己を心理学的に深く理解することを目指す。具体的には、無意識のこころ、コンプレックス、学習理論、しつけの仕方、知覚の理論、認知の発達理論、心理テストの実施などを予定し、人間のこころと行動の理解、心理学のおもしろさの発見、自分のこころとの出遇いを目指す。	
	人間理解の心理学	人間の心理的発達理論を通して、青年期を生きる自己理解を深め、心理テストさらには人間に共通の心理特性への理解を深めて、対人関係を豊かにすることを目指す。本講義では、(1)人間の生涯にわたる心理発達の過程と発達課題を理解して、自己の過去を振り返り、現在を見つめ、将来を見渡すこと。(2)人間の心理特性を理解して、円滑な対人関係を構築することを目指す。	
	スポーツと健康の科学1	スポーツ現場で起こる事象について心理学的視点から理解する。具体的には、スポーツ心理学の歴史的背景、生涯発達の視点からみたスポーツ、スポーツにおける動機づけ、運動好きと運動嫌い、指導者の及ぼす影響、チームの心理(チームワークとリーダーシップ)、怪我(心理学的意味と心理サポート)、スポーツ選手の心理サポートなどの諸点について考察を進めていく。	
	スポーツと健康の科学2	アスリートの心理サポート、特に試合の場における心理現象について考察していく。心理的問題を考え、どのように乗り越えるのか対策が立てられるようになることを目指す。具体的には、メンタルマネジメントの実際として、アセスメント、目標設定、セルフモニタリング、ピークパフォーマンス分析、集中力、パフォーマンスルーティン、ピーキングメンタルマネジメントの諸事例を学んでいく。	
脳とこころ	脳の機能の基本的な知識、および脳とこころの関係を理解するとともに、こころの病気について知識を深めることを目的とする。脳の構造と機能について基本的な事項を学修し、神経系の機能や感覚器の概要、多岐にわたる脳の病気の症例やその対応などについて、具体的な事例を参照しながら考察を進めていき、脳の機能とこころとの関係、こころの病気についての基礎的知識の修得を目指す。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
現代総合科目 自然生命系科目	障害者スポーツ論	障害のある人のスポーツへの理解を深めることを目的としながら、「初級スポーツ指導員」資格取得に関する授業として、障害者スポーツ実践に役立てられることも目標としている。本講義では、(1) 障害者スポーツを知る、(2) 「障害」についての知識を身につける、(3) 障害のある人にとってのスポーツの意義を理解し、スポーツを通じたノーマライゼーションについて理解することを課題とし、その理解と実践のために、データ資料とビデオ資料を織り交えながら考察を展開していく。	
	生涯スポーツ・レクリエーション活動	本講義は、身体活動としてのスポーツと余暇活動をテーマとし、現代社会及び少子高齢化社会においてスポーツやレクリエーション活動が果たす役割について理解することを目標としている。また、障害者に関する「初級スポーツ指導員」資格取得に関する授業として、障害者スポーツ実践のための基礎理論の習得も目標としている。授業計画では、資料配付、ビデオ鑑賞、実体験、レポート作成などを交えながら授業を展開する予定である。	
	スポーツ研究演習 I	スポーツ実践を支えるからだ・心について具体的に考えながら、からだを動かすことの意味やスポーツとは何かについて考察する。本授業での考察を通じて、トレーニングの基礎理論・ウォーミングアップやストレッチなどを理解し、自己の体力に応じたトレーニングメニューを作成・実践することで、これからの自分自身の健康や体力を考える力を身につけることを目指す。	
	障害者スポーツ研究演習 I	本講義は、障害のある人のスポーツとからだを考えることを目的とする。具体的には、障害のある人のスポーツ（車椅子スポーツ、視覚障害者のスポーツ、レクリエーションスポーツ）の紹介とその実践を通して、障害や障害者スポーツについての基本的な知識を身につけ、障害のある人にとってのスポーツの意義を知り、障害の有無に関わらず参加できるスポーツを考察し、スポーツを通じたノーマライゼーションを理解する。	
	スポーツ研究演習 II	スポーツ実践を支えるからだ・心について具体的に考えながら、からだを動かすことの意味やスポーツとは何かについて考察する。本授業での考察を通じて、トレーニングの基礎理論・ウォーミングアップやストレッチなどを理解し、自己の体力に応じたトレーニングメニューを作成・実践することで、これからの自分自身の健康や体力を考える力を身につけることを目指す。	
	障害者スポーツ研究演習 II	本講義は、障害のある人のスポーツとからだを考えることを目的とする。具体的には、障害のある人のスポーツ（車椅子スポーツ、視覚障害者のスポーツ、レクリエーションスポーツ）の紹介とその実践を通して、障害や障害者スポーツについての基本的な知識を身につけ、障害のある人にとってのスポーツの意義を知り、障害の有無に関わらず参加できるスポーツを考察し、スポーツを通じたノーマライゼーションを理解する。	
	カウンセリング	カウンセリングを、心理学の実践の場ととらえ、カウンセリングの基礎である臨床心理学を中心に、カウンセリングの理論を理解する。また、事例論文を読み、カウンセリングの流れをつかむ。考察の流れとしては、カウンセリングの歴史と背景、主要理論、対象と外的枠づけ、さまざまな技法、正常と異常の理解、カウンセリングが必要になるときなどの項目を学び、事例論文を基にした事例検討をおこなう。これらの考察を通して、カウンセリングの理論的背景や専門性を学び、精神的健康について理解することを目指す。	
	身体活動 I	身体活動の体験には、からだや心、コミュニケーション、行動力などの意識を高める要素が含まれている。バドミントン、バスケットボール、バレーボール、卓球の各競技のスポーツ活動を通じて、自己表現力を高めることを目指す。各競技においては、種目別実技の基礎技術の理解、基礎技術の応用、ゲームの知識と実践、ゲーム方式の検討と工夫を考察し、発表していく。	
	身体活動 I（障害者スポーツ）	障害のある人のスポーツを理解することを第一目標として、障害の種類や程度に応じて行われているスポーツ種目を実体験する。具体的には、(1) 視覚に障害のある人のスポーツ（誘導、伴走、独歩、ボール扱い）(2) 車椅子使用のスポーツ（スラローム競技）(3) 障害者とレクリエーション・スポーツ（輪投げ、ベタンク）について基本的な必要技術を確認する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
自然生命系科目	身体活動Ⅱ	身体活動の体験には、からだや心、コミュニケーション、行動力などの意識を高める要素が含まれている。バドミントン、バスケットボール、バレーボール、卓球の各競技のスポーツ活動を通じて、自己表現力を高めることを目指す。「身体活動Ⅰ」での学習に引き続き、バドミントン、バスケットボール、バレーボール、卓球を開講し、各競技の種目別実技の基礎技術の理解、基礎技術の応用、ゲームの知識と実践、ゲーム方式の検討と工夫を考察し、発表していく。	
	身体活動Ⅱ（障害者スポーツ）	障害のある人のスポーツを理解することを第一目標として、障害の種類や程度に応じて行われているスポーツ種目を実体験する。「身体活動Ⅰ（障害者スポーツ）」に引き続き、(1) 視覚に障害のある人のスポーツ（ゴールボール、フローバレーボール、盲人卓球）(2) 車椅子使用のスポーツ（車椅子バスケット、車椅子テニス）(3) 障害者とレクリエーション・スポーツ（輪投げ、フリーフロー）について基本的な必要技術を確認する。	
	人間関係と身体表現	ノンバーバル（非言語）コミュニケーションについて基本的な理論を知り、実際の活動場面での体験をとおして、日常的な生活のなかで実践できるようになることを目標とする。言葉での情報伝達が中心と考えがちな人と人とのコミュニケーションについて、言葉以外の要素（ノンバーバル）に着目し、知識を深め、さまざまな場面での実践を経験し、ノンバーバルコミュニケーションを活用する。	
	障害者・病者と共に生きる	授業の中心に据えるハンセン病問題への学びをとおして、「差別から人間が解放されるとは一体どのようなことなのか」という課題を深め、差別を見抜き、それを許さない自己自身の確立と、「共に生きる」ということを自らの課題として受けとめていくことを授業の目標とする。近現代日本の絶対隔離政策の実際とその背景および、厳しい隔離と差別の中で、人間回復の闘いを続けてきた人たちの運動の歴史と現在を学習し、「障害者」「病者」と共に生きるということ、各人の主体の上に確かめていく。	
現代総合科目	ヨーロッパの宗教と文化（ドイツ）	事前講義では、現地研修をおこなう動機の上昇を目的として、研修に必要なドイツ語の基礎をレクチャーし、映像資料を用いて各研修地の生活と文化の特徴を考察する。現地研修では、リュデスハイム、コッヘム、ローライを訪問し、大学町であるハイデルベルクでは日本の大学とのちがいを視察し、ミュンヘンでは、事前学習の成果をふまえて、美術館を中心に精力的にグループ行動をおこなう予定である。事前講義と現地の人々との交流体験学習を通じ、ドイツ文化のみならず、異文化理解に必要なさまざまな事柄をひろく修得する。	
	ヨーロッパの宗教と文化（フランス）	フランスの豊かな生活文化や地方の風景・歴史的建造物などにじかに触れ、具体的知識だけでなく内面的視野をも広げることを目的とする。事前講義では、研修に必要な最低限のフランス語会話、および、歴史や文化についての基礎知識を習得する。現地研修では、パリのほか、ロワール地方、モン・サン・ミッシェルとジヴェルニーを訪れる予定である。事前講義と現地の人々との交流体験学習を通じ、フランス文化のみならず、異文化理解に必要なさまざまな事柄をひろく修得する。	
	現代朝鮮半島事情	朝鮮半島の人びとが経験した日本による植民地支配、朝鮮戦争から現代に至る歴史を概観したうえで、韓国と北朝鮮の政治・経済・社会・文化の現状と課題について、安全保障体制、民主化、産業や労働、芸能やスポーツ文化など、さまざまな具体的トピックを交えつつ検討し、理解を深める。また、日本、韓国、北朝鮮、在日の人びととそれぞれの相互理解や交流の現状と課題、マスメディアやSNSがそれに果たす役割、日韓世論動向などにも言及する。	
	現代東南アジア事情	東南アジア諸国と日本は、過去から現在にいたるまで政治経済面で緊密な関係にある。講義では、東南アジアの地理や現代史に関する概括的知識を確かめたうえで、東西冷戦体制が終焉し東南アジアに経済の時代が訪れて以降、政治・経済・社会・文化の各側面でどのような状況が生じているかを、タイなどいくつかの国に焦点を当てて概観する。国レベルだけでなく、地方の人びとの暮らしや人間関係や意識にも目を向ける。映像資料を適宜、視聴し、履修者が具体的なイメージを持って、考えることができるよう配慮する。	
歴史文化系科目	東南アジアの宗教文化	東南アジアではさまざまなエスニシティの人びとが暮らしている。彼らの少なからずはそれぞれに自前の精霊（カミ）を祀っている。そして仏教やイスラムなど世界宗教の信徒でもある。講義では、たとえば、東南アジア大陸部の上座部仏教とそれに帰依する人びとに焦点を当てる。僧侶、サンガ、寺院、経典等について説明する一方で、在家信徒の宗教意識や儀礼実践、近現代の社会変動と宗教文化との関連などに言及する。具体的な事例を検討するなかで、当地の人びとの宗教生活の様態への理解を深める。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
現代総合科目 歴史文化系科目	近代日本とアジア	19世紀における日本の歴史、特に誰でも知っているであろう「ペリー来航」という事件の周辺を、世界史の中の日本、東アジアの中の日本、という視点から描き直す。歴史の時代区分という問題、世界史における「近代」、東アジア史における「近代」、東アジアにおけるイギリスとアメリカ、ペリー来航の意義などの考察を通して、日本史／世界史という二区分の発想から頭を解放する。これらを通して、歴史を大きくとらえる視点を養い、一つの事件の歴史的な背景を探る姿勢を身につける。	
	東アジアの宗教文化	中国近世の宗教と国家をテーマに、宋から清代に至る中国近世において、宗教は国家といかなる関係を取り結び、どのような歩みを辿ったのか、そこにいかなる宗教文化が形成されたのかを概述する。「大藏経」と「道蔵」の開版、新儒教と新道教、仏道論争の経緯、宗教結社と秘密結社、宗教と「反乱」などの考察を通して、中国近世（10～19世紀）における儒仏道三教およびその他の宗教や民間信仰の歴史とそこから生み出される文化について基礎的な理解を得る。	
	古都の歴史と文化	京菓子は平安時代にまでつながる文化の所産であり、日本独自の食べ物に発展し今に伝わり生活に生き続けている。授業を通してお菓子の文化を知り京都の生活文化を理解する。また京菓子だけではなく、いろいろな京都の工芸品の意匠(デザイン)に影響を与えた俵屋宗達・尾形光琳などの琳派について学ぶことにより、京都の意匠(デザイン)の奥深さについても理解していく。	
	仏教と美術	本講義は、荘厳の世界を具体的な事例をとおして考察していく。「荘厳」とは目に見えない仏の世界を形にあらわすことである。仏教に関わる美術や工芸が、寺院の荘厳をどのように実現しているのか、その技術や思想、歴史的・文化的背景について考察する。これらの荘厳に関わる一つひとつの文化が、どのように仏教と関わるのかを考えることを通じて京都の伝統文化のあり方を理解していく。	
	インドの宗教と文化	事前講義においては、仏教を中心としたインドの宗教や文化・歴史の概要について学ぶ。また現地研修では、インド北東部やネパールに点在している四大仏跡などの仏教遺跡を中心に、インドの大地を2週間かけて巡り、インドの文化に肌で触れる。事前講義と日本とは環境が大きく異なる国を訪れる現地研修での学びを通して、私たちが日頃当たり前と思っている自分の日常やものの考え方を反省的に問い直し、異文化を理解する視座を身につける。	
	中国の宗教と文化	日本の宗教と文化に決定的な影響を与えた中国。この研修は、中国を代表する仏教遺跡を実際に訪ね中国と日本、双方の宗教と文化理解を深めること、また急速な経済発展を遂げている「現代の中国」と、変わらずある「悠久なる中国の歴史と文化」と理解することを目的とする。現地研修では、西安や洛陽、敦煌などを訪れる予定であるが、親鸞に影響を与えた浄土三祖関係をも視野に入れたコース設定となる。準備として、中国仏教史や浄土三祖伝などの事前講義を行う。	
	人と文化	男性と女性の身のまわりの出来事に視点を当て、そこに写し出される人間行動の諸相を明らかにする。男女差と文化、ジェンダー、結婚の類型、インセスト・タブー、同性愛、女人禁制などのテーマを考察していくことで、文化人類学がどのような学問なのかを理解し、その研究視点について修得する。そのうえで、人類における男性と女性の多様な価値観が理解できることを目標とする。	
	教育学1	本講義は、教育観の歴史と教育の理念をテーマとする。具体的には、西欧近代における教育思想とその背景にあることも観の歴史の変遷、および近代以降の日本における教育制度と教育実践の歴史的展開を考察し、教育の意義や目的について自らの問題として考えることができ、現代社会における教育の課題を理解し、それに対する自分の考えをまとめて討論に参加することが出来るようになることを目的とする。	
	教育学2	教育と人間とはどのように関係しているのかを学んでいく。まず、わたしたちの受けてきた教育を振り返り、教育はどのように生まれてきたかを見る。その後、教育現象の具体的なテーマとして、子どもと教育、学校（教育）における病理現象、家庭と教育を取り上げ考察を深めていく。本講義をとおして、教育が人間に及ぼす影響について教育学の知見を学んでいくことはもちろん、社会学・心理学・哲学等、教育学の周辺領域についての知見も取り入れ、教育について深く考えることができるようになることを目指す。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考	
現代総合科目	歴史文化系科目	ブッダに学ぶ	ヒマラヤ山脈の麓に広がるチベット。そこではおもにインド大乘仏教と後期密教の伝統が継承され、仏教が人々に根付いている。一方で仏教と同じく輪廻からの脱出と成仏を目標としながら、チベット土着の宗教伝統を受け継ぐユンドウン・ボンの教えもこの地には存在する。こうしたチベットの宗教の中で、ブッダはどのように描かれ、どのような教えを説いたとされるのかを俯瞰しながら、そこから我々が何を学ぶべきかを考える。	
		親鸞に学ぶ	親鸞の生涯とその基本的な思想を学ぶことを通して、現代を生きる私たち人間の課題について考える。親鸞は、その生涯を通して「人間の真実の生き方」をたえず問い続けていった人である。親鸞の言葉をてがかりに、その人間観を学ぶ。親鸞は、二十年に及ぶ比叡山での自力修行を棄てて、法然の専修念仏の教えに帰依する。これは親鸞の生涯において決定的な出来事であり、自らその事実を「雑行を棄てて本願に帰す」と告白している。これは、単にそれまでの自力修行を止めて、他力に切り替えたという意味ではなく、人間の本質がどこにあるのかを見出したことに他ならない。現代を生きる私たち自身の生き方をこの事実から問い尋ねていく。	
		部落差別と大谷派教団1	部落差別と大谷派教団との関わりをたどり、差別を傷む心の回復を求める。まず、部落差別の過去と現在を概観し、部落差別と仏教、ことに真宗大谷派教団との関わりはどのようなものであったかを、親鸞と当時の被差別民のありかたや、大谷派教団の差別事象、差別事件等を通して見ていく。これらを通して、大谷派にとって部落差別という問題のもつ意味を考える。また、人権とは何かについても学ぶ。部落差別問題とは、誰が、何を、どうしようとするものなのか、またそこから何が願われているのかを考察し、学習の主体と目的を明らかにする。	
		部落差別と大谷派教団2	親鸞と中世賤民のありかた、大谷派教団の差別事象を通して見ていく。また全国水平社による東西本願寺教団批判のもつ意味を考える。水平社は誕生と同時に、東西両本願寺教団に対して「募財拒否」を行っている。部落大衆の「貧困」が理由であると述べられているが、その底流には本願寺の募財のあり方が、差別を拡大し再生産しているという強い批判があった。「御同朋、御同行」と民衆を呼んだ親鸞の精神と、それに背いている教団の在り方への水平社の批判を通して、あらためて、現代における真宗教団の意義を確かめ直すことを課題とする。	
		部落差別と浄土真宗1	大谷大学人権問題学習テキスト『差別のない世界を求めて』の精読をおして、差別とは何か、部落差別とは何か、人権とは何かについて学ぶ。部落差別問題とは、誰が、何を、どうしようとするものなのか、またそこから何を願われているのかを考察し、学習の主体と目的を明らかにする。また、仏教（釈尊）と浄土真宗（親鸞）の思想が、この問題とどのように関わっているのかその視座を確認する。	
		部落差別と浄土真宗2	親鸞が開顕した浄土真宗の教えに立って、差別とは何か、部落差別とは何か、人権とは何かについて学び、人間が人間であるためにどのように生きていくべきかを考えていく。「部落差別と浄土真宗2」においては、「部落差別と浄土真宗1」で学んだ差別の歴史が単なる知的学習に終わるのではなく、自分自身の生き方とどう関わるのか、自らもまた差別する体質を持ち、差別している事実を学生自身に問いかける内容としていく。具体的には、親鸞の言説を確かめることを通して、信仰の内容と社会的差別に関わることが、別のことではないことを確かめていく。	
		部落史論1	日本独自の差別である部落差別は、どのようにして生みだされたのか。また、なぜ、どのように今も存続しているのかを学ぶことによって、差別を傷むところを回復する。部落差別という問題をその起源からアブローチし、日本の歴史を通じて、どのようにしてその差別が存続されてきたかについて、時代を追って学んでいく。特に「部落史論1」では、おもに中世から近世までの歴史資料の中から、人間の持つ差別性、浄穢観の形成と肥大化および、被差別者の諸相について確かめる。	
		部落史論2	「部落史論1」に続いて、日本独自の差別である部落差別は、どのようにして生みだされたのか。また、なぜ、どのようにして今も存続しているのかを学ぶことによって、差別を傷む心を回復することを目的として授業を行っていく。「部落史論2」では、ことに明治以降から現在に至る部落問題-国家による被差別部落対策としての政策、被差別部落観の推移などを見ていく。これらを通して、現在から未来に向けて、何が求められているのかを私たち一人ひとりの課題を確かめる形で模索していく。	
		反カースト運動論	カーストからの解放を求めて仏教に改宗したアンベードカルと、インド独立の父とも称されるガンディーの、人と思想を通して、それぞれの歴史的意味を考える。アンベードカルは、1954年にインド仏教徒協会を創設した。1956年12月に死去する2ヶ月前に三宝・五戒を授けられることで正式に仏教徒となる。これに続いて50万人もの不可触民（ダリット）と呼ばれる人々も仏教へ改宗し、新仏教運動へのきっかけとなった。彼は、徹底してカーストからの解放を願ってその生涯を解放のために捧げた。彼の生涯と思想的足跡をたどり、反カースト運動の意味を考察していく。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
現代総合科目 歴史文化系科目	アイヌ民族と共に	異民族としてのアイヌの民族文化を学び、異なった民族と共存する道を求める。アイヌ民族は、主に北海道、樺太、千島列島に居住する先住民族で、かつては東北地方北部からロシア・カムチャツカ半島南部に及ぶ広い範囲に居住し、狩猟・漁労に従事しながら、大陸との交易を盛んに行っていた。母語はアイヌ語で、固有の文化や生活習慣を有している。そのアイヌのもつ文化、和人との交流史などを確かめていく。先住民族の文化を学び、同時に侵略の歴史も学ぶことを通して、今何が求められているのか、私たち人間としての在り方も含め考えていく。	
	アジア侵略と宗教	人権理論、平和理論の今日の到達点を学び、日本国内、アジア太平洋地域を始めとする世界の人権・平和問題を分析する視点を培う。特に、戦前、戦中の宗教とりわけ仏教者の言説を中心に歴史を掘り起こし、その課題を探る。戦争を正当化する思想（靖国神社問題等）について学び、グローバルな人権と平和について考察する。過去の歴史を学ぶことを通して人権問題と平和が深く関わっていることを学ぶ。具体的には、宗教的人格権や平和的生存権を獲得する取り組みから現在の課題を学ぶ。人間解放の思想としての平和論（仏教思想）について考察する。	
	非戦の系譜	明治期の対外戦争への批判の跡をたどり、現代に生きる自らの戦争観をはっきりさせる。特に日露戦争における社会主義者、クリスチャン、仏教者の反応の跡をたどり、開戦論、非戦論の双方をみながら、明治後半期の日本の課題と現代に生きる私たちの戦争観を考える。また当時、和歌山県新宮を中心に非戦と平等を願い求めた大谷派の僧侶・高木顕明についても学ぶ。彼は「大逆事件」の罪を着せられ連座。さらに大谷派は高木顕明を住職差免僧籍剥奪をしている。国家の体制とそれに対して宗教が持つ意味についても、歴史を検証しつつ学ぶていく。	
	仏教福祉論	授業の前半では「寺の意味」について考えたい。寺院消滅、コミュニティの崩壊という現実を突きつけられて、私たちは何を失い、何を守らなければならないのだろうか。海外に点在する日系寺院の活動からは、国内の寺院活動とはまた違った視点が見えてくる。授業の後半では「スピリチュアル・ケアの実践」について考えたい。高齢者ケアの現場やホスピス／ビハーフ活動の現場を紹介しながら、同ケアの実践について理解を深めたい。	
諸課程科目	保育実習Ⅰ	本実習では、まず保育所および児童福祉施設等でそれぞれ2週間実習を行い、以下の5つの観点について経験的に学ぶ。1. 保育所、児童福祉施設等の役割や機能 2. 観察や子どもとのかかわりを通じた子ども理解 3. 子どもの保育及び保護者への支援 4. 保育の計画、観察、記録及び自己評価等 5. 保育士の業務内容や職業倫理	
	保育実習指導Ⅰ	本演習では、グループディスカッション等を通し、以下の5つの点について確認しながら保育実習Ⅰの意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ。1. 保育実習の意義・目的を理解する。2. 実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。4. 実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解する。5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。	2クラス開講
	保育実習Ⅱ	本実習では、保育所において2週間の実習を行い、以下の5つの観点について経験的に学び、保育士としての自己の課題を明確化させ、実践力向上につなげる。1. 保育所の役割や機能 2. 子どもの観察や関わりの視点 3. 子どもの保育及び保護者支援 4. 保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価 5. 保育士の業務内容や職業倫理	
	保育実習指導Ⅱ	本演習では、グループディスカッション等を通し、以下の4つの点について確認しながら保育実習Ⅱの意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ。1. 実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培う。2. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。3. 保育士の専門性と職業倫理について理解する。4. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。	2クラス開講
	保育実習Ⅲ	本実習では、児童副施設等（保育所以外）において2週間の実習を行い、以下の3つの観点について経験的に学び、保育士としての自己の課題を明確化させ、実践力向上につなげる。1. 児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能について実践を通して、理解を深める。2. 家庭と地域の生活実態にふれて、児童家庭福祉及び社会的養護に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養う。3. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
諸課程科目	保育実習指導Ⅲ	本演習では、グループディスカッション等を通し、以下の4つの点について確認しながら保育実習Ⅲの意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ。1. 実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培う。2. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。3. 保育士の専門性と職業倫理について理解する。4. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。	
	子どもの保健Ⅰa	本講義では、保育所保育指針および幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づき、以下の内容について理解することを目的とする。①子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義、②子どもの身体発育や生理機能及び運動機能並びに精神機能の発達と保健。	
	子どもの保健Ⅰb	本講義では、保育所保育指針および幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づき、以下の内容について理解することを目的とする。①子どもの疾病とその予防法及び適切な対応、②子どもの精神保健とその課題、⑤保育における環境及び衛生管理並びに安全管理、③施設等における子どもの心身の健康及び安全の実施体制。	
	子どもの保健Ⅱ	本演習では、保育所保育指針および幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づき、以下の内容について、それらの具体を学ぶことを目的とする。①子どもの健康及び安全に係る保健活動の計画及び評価、②子どもの健康増進及び心身の発育・発達を促す保健活動や環境、③子どもの疾病とその予防及び適切な対応、④救急時の対応や事故防止、安全管理、⑤現代社会における心の健康問題や地域保健活動等。	2クラス開講
	子どもの食と栄養	本演習では、保育所保育指針および幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づいて、子どもの健康的な生活と発達のために求められる食について以下の内容について具体的に理解することを目的とする。①健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識、②子どもの発育・発達と食生活の関連、③食育の基本とその内容及び食育のための環境（地域社会・文化とのかかわり）④家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題、⑤特別な配慮を要する子どもの食と栄養。	2クラス開講
	乳児保育	本演習では、保育所保育指針および幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づいて、乳児保育の理論と方法について、以下の五点を理解する。①乳児保育の理念と歴史の変遷及び役割、②保育所、乳児院等における乳児保育の現状と課題、③3歳未満児の発育・発達及び、健やかな成長を支える3歳未満児の生活と遊び、④乳児保育の計画作成、保育の内容や方法、環境構成や観察・記録等、⑤乳児保育における保護者や関係機関との連携。	2クラス開講
	乳幼児心理学	本演習では、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づき、乳幼児期の子どもの行動や心理を発達の視点から捉え、理解を深める。とくに、以下の四点について具体的に理解することを目的とする。①乳幼児の発達過程、②乳幼児の行動や心理の特徴、③言葉や認知の発達、④保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における保育内容と乳幼児心理学。	2クラス開講
	社会的養護内容	本演習では、社会的養護の理論と実践について、事例分析等を通して、以下の5点を具体的に理解する。①社会的養護における児童の権利擁護や保育士等の倫理、②施設養護及び他の社会的養護の実際、③個々の児童に応じた支援計画の作成、日常生活の支援、治療的支援、自立支援等の内容、④社会的養護にかかわるソーシャルワークの方法と技術、⑤社会的養護との関連で家庭支援、児童家庭福祉、地域福祉。	2クラス開講
	家庭支援論	本講義では、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づき、保育士の専門性として重要視されている子育て家庭への支援について理解することを目的とする。具体的には、以下の四点について理解を深める。①家庭の意義とその機能、②子育て家庭を取り巻く社会的状況、③子育て家庭の支援体制、④子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携。	
	青年心理学	本講義では、現代という複雑な時代のなかで、今まさに青年期を生きる受講者自身が、自分自身を見つめなおすことにより、自己理解を深め、成長のきっかけをつかむこと、また教師・保育者を目指すものとして、教育・保育活動のための知識や能力の向上をはかることを目指す。具体的には、青年期の心身の発達、認識や自己意識の発達とアイデンティティ形成、人間関係（親子、友人、恋愛）、進路・職業選択等、青年期に特有な課題について考察し、青年期に特徴的な精神病理や障害をもつ青年の理解や支援のあり方についても論じる。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
諸課程科目	保育相談支援	本演習では、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づき、保育士の専門性として重要視されている保護者支援について理解することを目的とする。具体的には、以下の四点について理解を深める。①保育相談支援の意義と原則、②保護者支援の基本、③保育相談支援の実際（内容や方法）、④保育所等児童福祉施設における保護者支援の実際。	2クラス開講
	保育心理士実習	本実習は、保育者としての専門性をさらにスキルアップするために本学独自に設定している実習であり、（公益社団法人）大谷保育協会の認定資格の規定に基づき行う。内容としては個別の支援のあり方を学ぶため、躓きを持った子どもとかかわることを原則とする実習である。一人ひとりの心に寄り添える資質と集団での適応支援をする実習で、（公益社団法人）大谷保育協会の認定する保育心理士のいる幼稚園・保育園・認定こども園において行う。	
	保育心理士実習指導	本実習は、（公益社団法人）大谷保育協会の認定資格・保育心理士資格取得の実習指導である。様々な「つまずき」を持つ子どもたちに対して、一人ひとりの発達に合わせたより適切な対応が求められている。また、子育てへの漠然とした不安をはじめ、虐待に至ってしまう秘めているケースなど、何らかのトラブルを抱える保護者への個別の支援のあり方を事前指導、実習、事後指導という一連の流れの中で学ぶ。	
	臨床心理学	本講義では、保育を行う上で理解しておくべき臨床心理学の知見を理解することを目的とする。「意識」「無意識」というこころの構造のとらえ方を理解することで、表面的には「問題行動」や「症状」としてあらわれている現象が、何を意味し何を訴えているのか、その内的な意味について考えられるようになることを目指す。またさまざまな心理療法について学び、その背景にあるこころのとらえ方を理解する。さらに昨今、大きな問題となっている虐待について、そのあり方、被虐待児の行動特性と対応、心的外傷とPTSDなどについて学ぶ。	

(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。

学校法人真宗大谷学園 設置認可等に関わる組織の移行表

平成29年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員
<b>大谷大学</b>			
<b>文学部</b>	745	—	2,980
真宗学科	70	—	280
仏教学科	25	—	100
哲学科	60	—	240
<b>社会学科</b>	120	—	480
歴史学科	100	—	400
文学科	70	—	280
国際文化学科	100	—	400
<b>人文情報学科</b>	100	—	400
<b>教育・心理学科</b>	100	—	400
計	745	—	2,980
<b>大谷大学短期大学部</b>			
<b>仏教科</b>	20	—	40
幼児教育保育科	80	—	160
計	100	—	200
<b>大谷大学大学院</b>			
<b>文学研究科(修士課程)</b>			
真宗学専攻	20	—	40
仏教学専攻	15	—	30
哲学専攻	10	—	20
社会学専攻	6	—	12
仏教文化専攻	10	—	20
国際文化専攻	10	—	20
教育・心理学専攻	8	—	16
計	79	—	158
<b>文学研究科(博士後期課程)</b>			
真宗学専攻	3	—	9
仏教学専攻	3	—	9
哲学専攻	3	—	9
社会学専攻	3	—	9
仏教文化専攻	3	—	9
国際文化専攻	3	—	9
計	18	—	54
<b>九州大谷短期大学</b>			
仏教学科	10	—	20
表現学科	50	—	100
幼児教育学科	100	—	200
福祉学科	35	—	70
専攻科福祉専攻	30	—	30
計	225	—	420

→

平成30年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
<b>大谷大学</b>				
<b>文学部</b>	405	—	1,620	定員変更
真宗学科	60	—	240	定員変更(△10)
仏教学科	25	—	100	
哲学科	50	—	200	定員変更(△10)
	0	—	0	平成30年4月学生募集停止
歴史学科	100	—	400	
文学科	70	—	280	
国際文化学科	90	—	360	定員変更(△10)
	0	—	0	平成30年4月学生募集停止
	0	—	0	平成30年4月学生募集停止
<b>社会学部</b>	220	—	880	学部の新設(届出)
現代社会学科	120	—	480	
コミュニティデザイン学科	100	—	400	
<b>教育学部</b>	130	—	520	学部の新設(届出)
教育学科	130	—	520	
計	745	—	2,980	
<b>大谷大学短期大学部</b>				
	0	—	0	平成30年4月学生募集停止
幼児教育保育科	80	—	160	
計	80	—	160	
<b>大谷大学大学院</b>				
<b>文学研究科(修士課程)</b>				
真宗学専攻	20	—	40	
仏教学専攻	15	—	30	
哲学専攻	10	—	20	
社会学専攻	6	—	12	
仏教文化専攻	10	—	20	
国際文化専攻	10	—	20	
教育・心理学専攻	8	—	16	
計	79	—	158	
<b>文学研究科(博士後期課程)</b>				
真宗学専攻	3	—	9	
仏教学専攻	3	—	9	
哲学専攻	3	—	9	
社会学専攻	3	—	9	
仏教文化専攻	3	—	9	
国際文化専攻	3	—	9	
計	18	—	54	
<b>九州大谷短期大学</b>				
仏教学科	10	—	20	
表現学科	50	—	100	
幼児教育学科	100	—	200	
福祉学科	35	—	70	
専攻科福祉専攻	30	—	30	
計	225	—	420	